一人ではどうにもできない貧困、
だから一緒にかえていく。

We walk together toward the world without poverty.

アクセス

活動報告書

2016-2017

アクセスとは

「10 人中 3 人の子どもが、小学校を卒業できない」

そんなフィリピンで、私たちは、「子どもに教育、女性に仕事」を提供する国際協力 NGO です。

1988 年に京都で設立されて以来、フィリピンの人々とともに活動を続けてきました。

フィリピンの貧しい人々も、日本で暮らす人々も、ともに地球市民として

「貧困をはじめとする社会的な課題を、一人ひとりが主体となって解決し、

より良い社会を創っていく」ことをめざしています。

Aspiring Citizens for Community Empowerment with Sunny Smile

Contents 目次

5分で知るアクセスとフィリピン

アクセスのミッション／フィリピン事業概要 ・・・・・・・・・・・・・ 3
アクセスの組織図 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 4
アクセスのあゆみ　1988-2017 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 5
統計から見るフィリピンの現状 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 6
2016 年度　活動ハイライト ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 7

2016 年度事業報告

アクセス総評 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 10
フィリピン事業報告 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 12
コミュニティ・エンパワメントの成果と課題 ・・・・・・・・・・・・・ 15
日本事業報告 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 16

2016 年度決算報告 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 21

2017 年度事業計画 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 24

私たちのめざすもの

「誰も犠牲にしない豊かな社会」をめざして ・・・・・・・・・・・・・ 26
私たちの活動の柱（要約版） ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 27
エンパワメントと組織化 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 28

役員・スタッフ・ボランティアスタッフ ・・・・・・・・・・・・・・・・ 30
活動を支えてくれている皆様 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 32
子どもたちの声／サポーターの声 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 34
2017 年度、ご参加、ご協力いただきたい活動 ・・・・・・・・・・ 35

活動報告書をお読みいただく皆さまへ

活動を始めて 29 年。これまで、活動資金が途絶えそうになったり、スタッフに裏切られたり、プロジェクトがうまくいかず停止に追い込まれたり・・・たくさんの困難に直面してきました。でもその度に、たくさんの方が励まし、手を差し伸べてくださり、そのおかげで私たちは今日まで活動を続けることができています。

頼もしい現地スタッフやボランティアスタッフの皆さん、さまざまな形でご協力くださっている皆さんとともに、まもなく 30 周年を迎えられることを本当にうれしく思います。経験から学んだことを活かし、「問題解決力をつける活動（エンパワメント）」を、これからも深化させていきます。どうか、引き続き、ご協力よろしくお願いいたします。

アクセス　日本事務局長　野田 沙良

アクセスのミッション

アクセスの
３つのミッション（使命）

どれか１つ欠けても
貧困をなくすことはできない、
と考えています

＊アクセスのミッションの詳細は、P26～29 をご覧ください。

フィリピン事業概要

■ピナツボ
1991 年に起こったピナツボ火山噴火の被災地区。特に土石流堆積の被害が大きかったパンパンガ州ポーラック町ミトラで、教育を中心としたコミュニティ復興事業を進めています。

■ペレーズ
小さな島の一画にある、貧しい農漁村地区ペレーズ。農業と漁業で生計を立てる人々が大半を占めています。
ここでは 1999 年より、教育支援、フェアトレード、青年育成、マイクロファイナンスなどの活動を行っています。

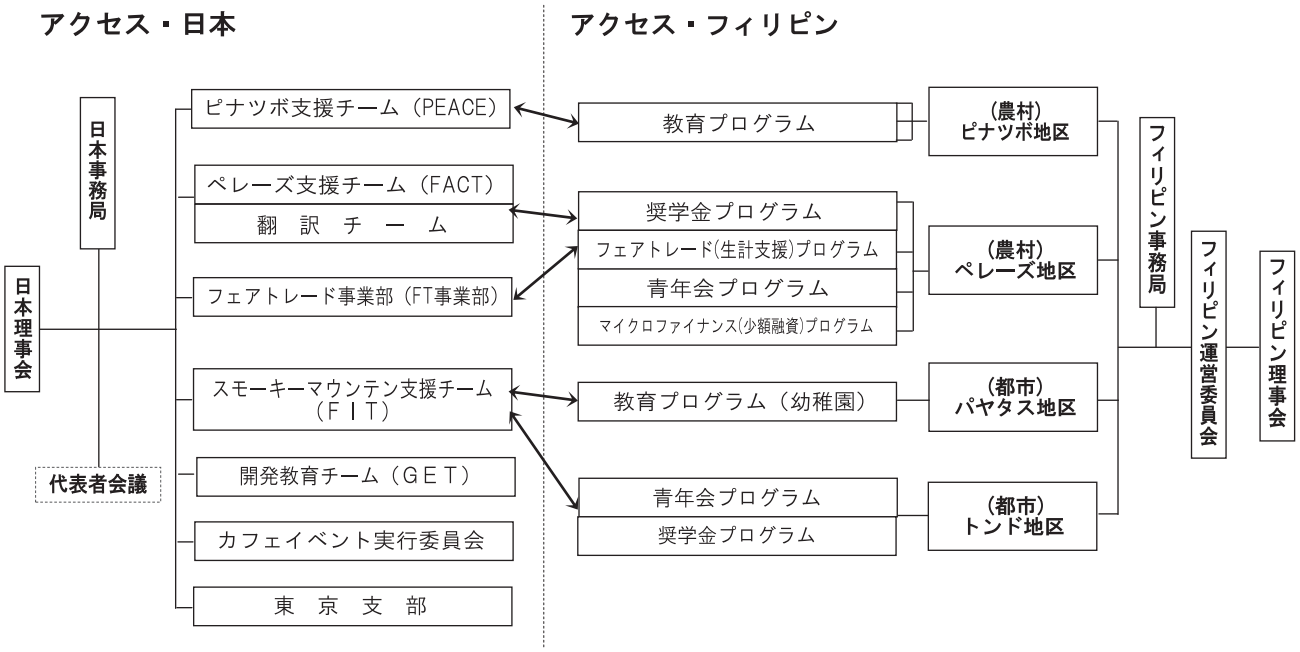
■パヤタス
マニラ首都圏から出るゴミの集積所の１つであるパヤタスで、1994 年に幼稚園を建設。2013 年より、その運営支援を行っています。

■アペロクルス
2015 年度末で活動を終了しました。

■トンド
マニラでも名の知れた貧困地区トンド。首都圏から出るゴミの集積場であるスモーキーマウンテンは、このトンド地区内にあります。ここでの活動は 2005 年から始まり、現在は地区内の若者や子どもたちを対象とした教育支援事業を行っています。

アクセスの組織図

2017 年 3 月時点



＊アクセス・日本とアクセス・フィリピンは、それぞれの国に理事会をもち、それぞれ法人格を持っていますが、実質的には２つで１つの国際協力ＮＧＯです。
2009 年度からは国際理事会を設置し、単一のＮＧＯとして意思決定を行っています。
＊一時活動を中止していたペレーズ支援チーム（FACT）は 2017 年より活動を再開しました。

ボランティアが活躍するアクセス

アクセスで定期的に活動するボランティアは、**約 60 人！**

そのほとんどが、「チーム」に所属しています。

チームメンバーは、アクセスの活動目的に沿って、

自分たちの活動を一から話し合い、計画し、実行します。

事務局は必要な時だけ、チームの活動をサポートします。

メンバーの主体性を重んじるからこそ生まれる

活気が、アクセスの魅力の1つかもしれません。

＊各チームの活動報告は、P16～19 に掲載しています。所属スタッフの一覧は P31 をご覧ください。
＊ボランティア情報メールへの登録者は 440 人です。

アクセス

【わたしたちがロゴに込めた想い】

「みんなで考え、話し合うことを通じて、活動を創っていく。」ふきだしは、そんなアクセスのスタイルを表現しています。
「活動を通じて支えあう関係をつくりだし、その中で笑顔をつくりだしていきたい。」
そんな願いを込めて、ふきだしがにっこり笑っているようなデザインになりました。　designed by musubi design

アクセスのあゆみ
1988-2017

「京都アジア文化交流センター」として創設 留学生寮・シェルターの運営	1988	
滞日外国人の人権侵害問題への取り組み	1989	
	1990	フィリピン・マニラに現地事務所を開
滞日外国人緊急医療問題への取り組み	1991	ピナツボ火山噴火
	1992	
ダバオ市から劇団ＫＡＬＩＷＡＴを招き日本公演	1993	
劇団ＫＡＬＩＷＡＴ日本公演	1994	ケソン市パヤタスにて就学前教育施設を建設・運営
	1995	
	1996	
	1997	パサイ市アペロクルス地区でプロジェクト開始 フィリピン現地事務所を現地法人に改組
「アジア文化交流センター」と改称	1998	ピナツボ地区・実験農場をパンパンガ州ポーラック町に移転
	1999	ケソン州アラバット島ペレーズ地区でプロジェクト開始
特定非営利活動法人に改組	2000	ペレーズ地区でフェアトレード事業開始
大蔵流狂言師茂山七五三氏によるチャリティ狂言公演 フェアトレード事業部発足	2001	
ＧＥＴ（開発教育チーム）発足	2002	
ＡＣＴ（アペロクルス支援チーム）発足 ＢＹＰＳ（ペレーズ家庭養豚奨学プログラム支援チーム）発足	2003	
ペレーズ支援チーム発足	2004	ペレーズ青年会設立
「アクセス - 共生社会をめざす地球市民の会」と改称	2005	マニラ市トンド地区スモーキーマウンテンで事業開始
ＦＩＴ（スモーキーマウンテン支援チーム）発足	2006	スモーキーマウンテン地区で青年会設立
	2007	ピナツボ地区で就学前教育施設の運営開始
	2008	ピナツボ地区で小学校校舎・井戸を建設
ＬＯＬＡ（ロラ支援チーム）発足	2009	ペレーズ地区で奨学金プログラム開始 ピナツボ地区で小学校校舎増築
ＰＥＡＣＥ（ピナツボ支援チーム）発足	2010	ペレーズ地区でマイクロファイナンス事業開始 ピナツボ地区で子どもに優しいコミュニティづくり事業開始 ピナツボ地区でカラバオ（水牛）供給プログラム開始
パートナーシップ大賞グランプリ／第五回かめのり賞　受賞	2011	
ＡＣＴチームとＦＡＣＥチームが合併し、ＦＡＣＴチームに	2012	
	2013	ケソン市パヤタスにて、就学前教育施設の運営を再開
社会人翻訳チーム、カフェイベント実行委員会発足	2014	ピナツボ地区に幼稚園・社会教育センター建設 立ち退きに伴い、スモーキーマウンテン地区事業終了
	2015	ピナツボ地区で子どもに優しいコミュニティづくり事業開始 トンド地区で奨学金プログラム開始
認定ＮＰＯ法人に認定	2016	
社会貢献者賞／ヒューマンかざぐるま賞　受賞	2017	

1988-2017

Statistics

統計から見る、フィリピンの現状

10 人に 3 人が

小学校を卒業できない、フィリピン。

その現状を、統計データを見ながら紹介します。

4人に 1 人が貧困層

経済成長率の高さが注目されるフィリピンですが、一人当たりGDP（国内総生産※1）は日本の約 5 分の 1。日本をはじめとする「北」の国との格差は、縮まっていません。

フィリピン政府は、「5 人家族が最低限必要とする生活費は月額 9,140 ペソ（日本円で約 20,108 円／1 日 1 人あたり 134 円）」としており、この基準を下回る貧困層は、2015 年で 21.6%（データ 1）と発表しています。世界銀行によると、2014 年に 1 日 1.9 ドル以下で暮らす人々は 13.1%（データ 2）とも言われています。国の経済が成長する一方で、その豊かさは底辺まで行き届いておらず、貧困層の割合・絶対数ともに増加しているのが現実です。

※1：国内で、1 年間に生みだされた生産物やサービスの金額の総和のこと

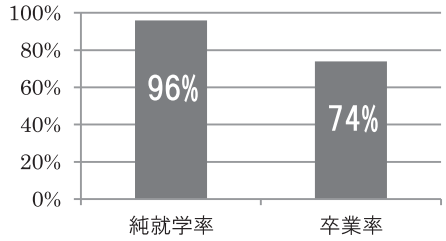
子どもの就学状況

フィリピンの初等教育における純就学率※2は、2013 年の統計で 96%でした（データ 3）。しかしながら、小学校に入学した児童のうち、卒業できるのは 74%にすぎません（データ 4）。

小学校教育に授業料はかかりませんが、学校の設備や教材などが不足していたり、制服や学用品が買えない、家計を支えるために働かなければならないといった理由で、中退者が後を絶ちません。

※2：一定の教育レベルにおいて、教育を受けるべき年齢の人口総数に対し、実際に教育を受けている（その年齢グループに属する）人の割合。

初等教育純就学率と卒業率（2013年）



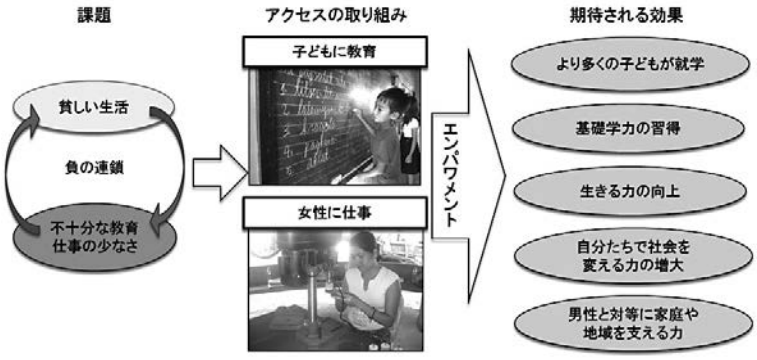
女性が活躍する国というイメージの一方で

フィリピンの管理職における女性の比率は世界でも 5 番目に高いと言われ（データ 5）、「女性が活躍する国」というイメージがあるかもしれません。しかし、2015 年の雇用率※3は、男性 77.3%、女性 50.1%と、女性の方が 27.2 ポイントも下回っています（データ 6）。

その背景には、貧困層において今も根強く残る、性的役割分業の意識があります。特に農漁村では、「男性は農業や漁業で収入を稼ぎ、女性は家事・育児をする」ことが一般的で、職業の選択肢が限られていることもあり、女性が仕事につくことは簡単ではありません。貧困層の女性ほど経済的に男性に依存せざるを得ず、子どもの暮らしを守るため、家庭でも地域でも、自分の意見や考えを押し殺して生きる女性が少なくありません。

※3：15 歳以上の働くことができる人々のうち、雇用されている人の割合

アクセスはこうした現状に対し、
「子どもに教育」、「女性に仕事」
を提供することで、女性や子どもの
エンパワメントをすすめています。



＊エンパワメントの具体的な内容については、P26-29 をご覧ください。

[データ出典]
データ 1　:“Basic 2017 Statistics” Asia Development Bank
データ 2　:“Basic 2017 Statistics” Asia Development Bank
データ 3　:EdStats World Bank
データ 4　:“Education in the Philippines” World Education News & Reviews
データ 5　:“The Gender Gap Report 2016” World Economic Forum
データ 6　:“Key Indicators for Asia and the Pacific 2016” Asian Dvelopment Bank

2016年度 活動ハイライト

写真：目を輝かせて学ぶ子どもたち。集落ごとに土曜日に開催している、奨学生のための補習授業にて

子どもの教育

10人中3人が小学校を卒業できないフィリピンで

560人

の子どもたちを支援しました

子どもの教育支援　2016年度の3大ニュース

1　50人が小学校を卒業

2　53,480食の給食を提供

3　集落ごとの保護者の組織化を進め、1件の不登校児童の復学を実現

［教育支援プログラム　参加者数］

奨学金プログラム	209人	幼稚園運営	79人
小学校運営支援	203人	若者の非行防止・育成	64人
中退者の卒業資格取得支援	5人		

＊詳細はP12へ

Education

Livelihood

2016年度 活動ハイライト

女性・若者の仕事

子どもの幸せを願う母親や、
働きたい若者たちへの仕事の提供

26人に

仕事の機会を提供

写真：
1枚1枚ていねいにクリスマスカードを作る女性

フェアトレード事業　2016年度の3大ニュース

1　4,723枚のグリーティングカードを生産

2　158 万円の売り上げを達成　（前年度の1.6倍）

3　平均月1,300ペソの収入を提供（米32キロが買える金額）

［仕事の提供　参加者数］

フェアトレード　11人　　マイクロファイナンス　15人　　食品加工セミナー　14人

＊詳細はP14へ

若者の非行防止と育成

文化活動や、清掃・植林ボランティアなどを通じ、地域のために
活動することをいとわない人材を育てる青年会を組織

64人が活動に参加

＊詳細はP13へ

写真：
子どもの権利をテーマとした人権ワークショップに参加した若者たち

Youth training

2016年度 活動ハイライト

出会い

スタディツアー参加
77人

写真：フィリピンの子どもと交流する日本の大学生

イベント参加
77人

写真：ボランティアが中心となって運営するイベントの様子

参加

880人以上が活動に参加

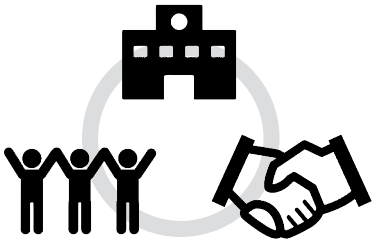
中古の本・CD・DVD・ゲームの寄付	62件
書き損じハガキ	46件
会員・サポーター	719人
ボランティアスタッフ	約60人

（P31のスタッフ一覧、P33の協力団体リストもご参照ください。）

協力・連携

36の企業・学校・非営利団体などとの連携

学校	7校
企業	15社
非営利団体	14団体



海外プロジェクトの協働、資金・物品の寄付、募金箱の設置、フェアトレード商品の販売

物品の収集、海外研修の受け入れ　などの形でご協力いただきました。

Collaboration

2016年度事業報告

アクセス総評

700名を越える方々に支えられて

2016年度はフィリピンの貧しい子どもや若者など560名に教育のチャンスを、26名の女性や若者に働くチャンスを提供することができました。ペレーズの奨学金プログラムでは、集落単位で保護者会や補習授業を開催することで、子どもたちの置かれている状況をしっかり把握し、虐待や不登校といった問題を小さい芽のうちに見つけ出して、同じ集落の保護者の方々の協力によって解決していくという取り組みに挑戦しました。フェアトレード事業では、前年度よりも多くの商品を生産・販売することができ、生産者の暮らしを一定程度、改善することができました。ただし、マイクロファイナンスは活動規模を縮小したため、働くチャンスを提供する活動の対象人数は減少しました。こうした活動をさまざまな形で支えてくださった皆様に、心よりお礼申し上げます。

事業運営能力がアップ

日本・フィリピンのスタッフの事業運営能力は、前年度に引き続き向上していることを実感しています。各事業の事業計画を半期ごとに振り返り、事業の達成度や成果を測ったり課題をみつけて対策をとったりするといったことが、ずいぶんスムーズにできるようになりました。アクセスの組織風土として定着させていきたいと思っています。

アクセス・フィリピンのビジョン・ミッション・ゴール

■ビジョン（展望）

私たちの夢は、次のような社会を築くことです。

- ✓ 人々が互いに多様性を受け入れ協調して生きられる社会
- ✓ 人々が自然環境と調和して暮らす社会
- ✓ 土地とすべての生産資源に誰もが平等にアクセスすることのできる社会
- ✓ 人々が社会関係を創造・発展させる自由、自分たちが責任を持って統治する自由を享受する社会
- ✓ 人権・尊厳・創造性が尊重される社会
- ✓ 人々、特に子どもたちが健康に、家族や社会の中で生きづらさを感じることなく生きられる社会
- ✓ 国境がなく、誰もが自由を大切にする社会

■ミッション（使命）

私たちは、アジア、とりわけフィリピンの貧しい人々の困窮状態に突き動かされ、また人としての義務感に鼓舞されて、国際連帯の推進、すなわち貧困・人権侵害・戦争と平和の諸問題に国境を越えて共同で取り組むことを通じて、貧しい人々・収奪された人々・抑圧された人々の集団的エンパワメントに献身します。

■ゴール（目標）

私たちは都市と農村の窮乏したコミュニティーにおいて、住民のニーズに応じたプログラムを複合的に実施することを通じて、住民が民主的に運営する組織を建設し、国際的・国内的なネットワークを形成することをめざします。

■戦略

私たちは、これらのビジョン・ミッション・ゴールの達成のために、貧困の中で生きる人々自身による草の根の住民組織を組織すると同時に、日本人とフィリピン人の中産層や専門家たち（学位保持者や大学卒である必要はない）に働きかけ、私たちが関わっている都市および農村の貧しいコミュニティーのニーズに対応した複合的なプログラムに参加する人々のネットワークを広げます。

また、こうした取り組みが安定的に行えるよう、責任ある組織の管理・運営を実現します。

ただ、フィリピン事業はここ数年、以下の問題に悩まされてきました。

✓ 組織の力量に対し、実施している事業の数・種類が多すぎる

✓ 組織の力量に対して、取り組んでいる事業の難易度が高い（特にビジネス系プログラム）

✓ 若手職員を指導・育成できる管理職が不足している

そこで 2016 年度は、一部の事業を整理・縮小することで、残った事業の質の向上に力をいれました。そんな中、若手スタッフ数名がイニシアティブを発揮してくれるようになっており、事業運営上も組織運営上も、直面している課題を放置せず、話し合いで解決のためのアクションを決定し、他のスタッフも巻き込んで解決していこうとする風土ができつつあります。

ここ数年の課題となっている、スタッフの退職が多いという問題については、若干の給与アップ、会議の持ち方の改善、研修の実施などの対策をとり、働きがいのある職場づくりに継続して取り組みました。そうした努力にも関わらず、フィリピン側は 1 名の退職、日本側は 2 名の退職となりました。アクセス・フィリピンでは、次のリーダーとなるべき 30 代 40 代の中堅職員が不足しているという現状が続いています。引き続き、個々のスタッフの目標を設定するなどして、一人ひとりの職員の成長を促すような職場づくりに力をいれ、スタッフが「子どもたち、女性たちの変化を実感できた。この仕事はやり甲斐がある。」と感じられるような環境づくりに取り組みます。

厳しい財務状況

財務状況については、過去数年の中で最悪の 337 万円の赤字となりました。以前より 2016 年度に大幅に収入減となることはわかっていたものの、職員の退職による人手不足で支援者拡大活動にほとんど手が回りませんでした。2017 年度は、慣例的に行ってきた業務の見直しや縮小・廃止などを積極的に行いながら、「エンパワメントにつながる活動」と「支援者拡大につながる活動」にバランスよくとりくんでいきたいと思います。

・・・・・・　２０１６年度　アクセス８つの成果と課題　・・・・・・

1　教育支援プログラム　活動の質が向上し、「子どもに優しいコミュニティづくり」も深化

2　生計支援プログラム　日本での売り上げ増加／フィリピン国内・欧米での販路拡大進まず

3　誰でも参加できる国際協力、伸び悩む

4　主催イベント（4 回）に 73 名が参加し、入会・ボランティア参加へ

5　フィリピン・スタディツアーは引き続き好調

6　認定 NPO 法人認定　（2016 年 8 月 10 日）

7　10 年後のビジョン議論の継続

8　日本法人において、働きがいのある職場環境の整備をめざした試行錯誤

株式会社ドロキア・オラシイタ × アクセス

2014 年より、「焼きたてチーズタルト専門店 PABLO」で知られるドロキア・オラシイタにご協力いただき、パヤタス地区とトンド地区で、子どもたちを対象とした、給食と教育支援を継続しています。

「PABLO 出店のために訪れたフィリピンで、チーズタルトを買える富裕層の裏に、食事もままならない貧困層が沢山いるのだと実感しました。」と話す、社長の嵜本将光さん。2017 年度も、パヤタス地区・トンド地区の子どもたちの給食と教育支援にご協力いただいています。

フィリピン事業報告

子どもの教育・青少年の育成

奨学金プログラム　ペレーズ地区／トンド地区

209 人の小学校就学を支援

【事業地】
ケソン州アラバット島ペレーズ町
マニラ首都圏マニラ市トンド

50 人が小学校を卒業

2017 年 3 月には、アクセスの奨学生 50 人が小学校を卒業することができました。奨学金がなければ、小学校すら卒業が難しかったであろう子どもたちの姿を、親たちは笑顔で見守っていました。

フィリピンでは 9 割以上の子どもたちが小学校に入学しますが、入学した子どもの 10 人に 3 人は、経済的な理由などで退学してしまいます。自分に自信を持てないまま、苦労の多い人生を歩むことになる子どもを一人でも減らすため、2016 年度もたくさんの方にご協力いただき、奨学金プログラムを続けることができました。

忙しいお母さんたちも参加しやすく

アクセスの奨学金プログラムでは、制服・靴・カバン・文房具といった通学に必要なものを現物で提供するほか、保護者に調理をお願いして給食を提供したり、土曜日には地域の若者たちの協力を得て補習授業を実施しています。また、保護者会・奨学生会の能力強化のためのセミナーも、奨学金プログラムの重要な一部です。

ただ、これらの補習授業や会議の参加率がなかなか上がらないことが課題になっていました。そこで 2016 年度は、小さな集落ごとに補習授業や会議を開催。忙しいお母さんやなかなかモチベーションが上がらない子どもたちにとっても参加しやすくなりました。また授業の内容も、ビジュアルアートを取り入れ、子どもたちが楽しみながら学べる内容に変えたことで、参加率がずいぶん向上しました。現在では、奨学金プログラムの支援対象にはなっていない地域の子どもたちの中からも、補習授業に参加する子が出始めています。

体罰で不登校になっていた子も…

2010 年より子どもの権利セミナーを開催し、子どもに優しいコミュニティづくりに取り組んできたペレーズ地区では、保護者の方々が集落の子どもたちの様子に目を配り、異変があればアクセスのスタッフと協力して、子どもの困りごとの解決のために協力できるようになりつつあります。

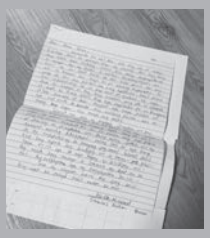
2016 年度中は、学校の先生からの体罰が原因で不登校となってしまった子どもを早期に発見。保護者とアクセススタッフが協力して学校の苦情委員会に相談し、担任を変更した上で復学させることができました。

その一方で、2015 年度に奨学金プログラムを開始したトンド地区では、25 人の奨学生のうち、5 人がさまざまな理由でプログラムから脱退しました。ペレーズ地区の経験から学び、改善を図ります。

奨学金の提供
幼稚園運営
青年会

Education

奨学生のお母さんから、サポーターの方へ届いたお手紙



お元気ですか？私は天候のせいもあり、喘息で咳が出ることがありますがどうか心配しないでくださいね。私は今、妊娠 6 カ月ですが、子どもたちの学費を稼ぐため、仕事を続けています。

先日は娘のためにプレゼントをありがとうございました。娘はとても気に入っています！あなたが送ってくれた写真や絵、私もとっても気に入りました。娘の勉強を支援してくれるだけでなく、こうして娘を幸せにしてくれていることに感謝しています。娘が幸せそうにしているのを見るだけで、私は十分に幸せです。

奨学生レイアの母　マリア（仮名）

幼 稚 園 運 営　パヤタス地区／ピナツボ火山被災地

79 人の子どもたちを受け入れ

【事業地】
1．ピナツボ火山被災地
　パンパンガ州ポーラック町
2．ゴミ捨て場周辺コミュニティ
　マニラ首都圏ケソン市パヤタス地区

パヤタス地区の幼稚園での授業の様子

アクセスでは、上記 2 地区において 2 つの幼稚園を運営し、4 歳児への就学前教育を行っています。

週 5 日、10 カ月間にわたって、「私」「家族」「コミュニティ」「他の国」「宇宙」などの 7 つのトピックを通じて、言語、認識、運動、自助、社会性・情緒の 5 つの領域での発達をうながす授業を行いました。また、近畿ろうきんや株式会社ドロキア・オラシイタからの支援により、ご飯と栄養のあるおかずを給食として提供しました。給食の食材買い出しや後片付けなどは、すべて保護者が分担してボランティアで担いました。

このほか、健康診断、ビタミン剤の提供、歯磨きの奨励など、健康を促進する活動も行いました。

青 少 年 の 育 成　ペレーズ地区／トンド地区

フィリピンでは、青少年の非行（喫煙、飲酒、薬物使用など）は深刻な問題となっています。アクセスでは、13〜22 歳の青少年が参加する青年会を 2 地区で組織し、下記のような活動を行うことで、地域のために協力して行動できる若者の育成に取り組みました。

- ✔ 社会問題についての学習会
- ✔地域の課題や人権問題を表現する演劇、ダンス等の創作・練習
- ✔ 文化発表会への参加、開催
- ✔ 貧困について学び考える、サマーキャンプ
- ✔ マニラを訪問するスタディツアー（ペレーズ地区）
- ✔ 地域貢献活動（植林、清掃、奨学生の補習授業での指導役など）

奨学生に勉強を教える青年会メンバー

2016 年度、首都マニラの中でも最大の貧困地区といわれるトンド地区で組織している青年会では、49 人がメンバー登録し、うち 12 数名が中心となって活動を行いました。農漁村ペレーズ地区では、15 人が活動に参加しました。

社 会 教 育　ピナツボ火山被災地

ピナツボ地区では、フィリピン政府教育省と連携し、アクセスが建設した社会教育センターにて、ALS（Alternative Learning System）の補習授業を行いました。これは、小学校や中学校を中退した人たちのための制度で、週 1 回の授業を受け、試験に合格すると、卒業資格を得られます。2016 年度は、2 名が中学校の卒業資格を取得、うち 1 名が大学に進学しました。

また、同センターにて、地域の保護者を対象にした食品加工に関する実習も 5 回、開催しました。

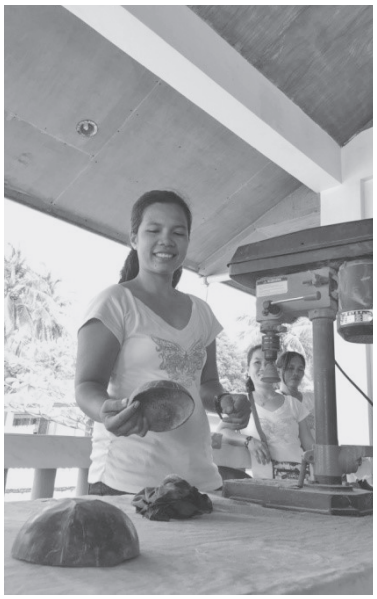
（写真：ALS の補習授業を受講する女性 2 名と、先生）

フィリピン事業報告

女性と若者の仕事づくり

フェアトレード事業　ペレーズ地区

左：カード材料である卵の殻を乾かす生産者のカーウィンさん／右：ココナツの殻を磨く、新人のソビンさん



Mapayapa（マパヤパ）　4 名
ココナツ殻雑貨生産グループ

Pangarap（パンガラ）　7 名
グリーティングカード生産グループ

年間売上　158 万円

「子どもにお腹いっぱい食べさせてあげたい」「進学して夢に向かってがんばりたい」そんな夢を持つお母さんたちや若者を応援しようと、2016 年度もフェアトレード商品の生産と販売に取り組みました。1 人でも多くの人に働くチャンスを提供し、努力すれば夢がかなえられる地域づくりに貢献することをめざしています。

新メンバーの一人は、子どものころから心臓病を抱えているため重労働ができず、定職に就けずにいました。カード生産者として働くようになり、「自分で稼いだお金で、自分の欲しいものを買えることが本当にうれしい」と笑顔で話します。

2016 年度は、日本からの注文に応じた商品生産と並行して、生産者・担当スタッフの能力強化に力を注ぎました。

生産者には毎月の会議に加えて、毎日仕事を始める前に打ち合わせを行うようになりました。生産プロセスでうまくいかないことがあった際にも、担当スタッフに頼るのではなく、打ち合わせの場で相談して解決策を出すようになっています。

また、生産者グループが将来的に協同組合となっていくことを見通してのセミナー（コンピュータの基礎、在庫管理の重要性、フェアトレードの原則）を実施することができました。

その一方で、欧米やフィリピン国内での販路の拡大については、思うように進みませんでした。担当スタッフが退職し、後任を募集しても適任者が見つからないまま年度末を迎えたことが一因です。2017 年度は、新職員を迎え販路拡大に向けた調査を実施して販路を広げていくこと、また材料在庫の管理、生産原価の管理を行うことが課題となっています。

マイクロファイナンス事業　ペレーズ地区

商売を通じて生活を改善したいと希望する女性に少額を融資するマイクロファイナンス事業では、15 人への融資を継続しました。借入金で雑貨店を経営したり、行商や炭焼き、養豚などを行い、毎週少しずつ返済します。

2010 年に開始して以来、返済率 100％が続いていた本事業ですが、2014 年度に入ってから返済率が低下。2016 年度は規模を最小限に縮小して継続しました。年度末には、一部の利用者が完済したため、融資利用者は 8 名となり、週平均 2,000 ペソ（約 4,400 円）の回収となりました。

コミュニティエンパワメントの現状と課題

～私たちの次のチャレンジに向かって～

アクセス日本　事務局長　野田沙良

スタッフの奮闘に感謝

前年度に引き続き、子どもの教育に関する事業が順調に前進しています。特に、ペレーズ地区のスタッフたちの工夫と努力は、目を見張るものがあります。

現在、奨学金プログラム担当のスタッフは30歳前後の女性3人。皆、教育学部で学び、一度は先生をめざしたことのある人たちです。この3人と、ペレーズ地区コーディネーター（30代男性）が、日々発生するトラブルや、奨学生や保護者の抱える困りごとに対応してくれています。

ペレーズの奨学金プログラムでは、小学校に通えるようにするだけでなく、子どもたちが安心して暮らし、成長できる環境づくりに取り組んできました。子どもの権利セミナーを何年も継続し、村議会や地域で子どもに関わる関係者を巻き込んで「子どもの保護に関する住民評議会」の設立を実現。その結果、子どもの権利と福祉に関する村の行政が前進しています。

2016年度からは集落ごとに保護者会リーダーをおき、「学校を休みがち」「虐待かも」といった、日々の変化に目を配ってもらうことにしました。何かあればすぐに保護者会メンバーが話し合い、必要に応じて村議会や学校、アクセスなどと連携して解決のために行動する。そんな仕組みと意識が、ゆるやかにですが育まれつつあります。

実際、学校の先生からの体罰がきっかけで不登校になっていた奨学生を近所のお母さんが発見して、アクセスに報告してくれるという事例がありました。その子の保護者は、どうすればよいかわからず戸惑い、対応できずにいました。

そこで、アクセスのスタッフが保護者とよく話し合い、一緒に学校の苦情委員会に相談に行くことになりました。その結果、学校側は事情を理解してくれ、担任の先生を変更してもらうことができ、その子は無事に復学し、進級もすることができました。

補習授業や、保護者会のミーティングについても、できるだけ集落ごとに開催するように変更しました。そのことで、スタッフが一人ひとりの奨学生、そして保護者に目が行き届くようになり、それぞれの家庭・個人が抱えている困りごとに早期に気づけるようになりました。

この結果、奨学生184人中、47人は卒業、136人は進級を果たしました。（1名は残念ながら、不登校によって留年となってしまいました。）

進級した子どもたちのうち8名は、年度末のタイミングでアクセスからの支援を終了することになりました。大半は引っ越しによるもので、数名は、保護者が会議や給食調理に参加してくれないという理由からでした。これは、前年度の18名に比べて、大幅な減少となっています。集落単位で集まりを持ち、スタッフが丁寧に関係作りをしてくれたおかげだと考えています。

どんなプログラムでも、実施の過程で必ずさまざまなトラブルが発生しますが、問題が起こりにくい仕組みや、トラブルが起こった時にすぐ対処するための仕組みを作ることが非常に重要です。ペレーズ地区は現在、そうした仕組みを考案するスタッフ、そしてそれを実践しようとするスタッフに恵まれたおかげで、コミュニティ・エンパワメントが進んでいます。

フェアトレードの躍進

フィリピンでのエンパワメントが進んでいる一方で、日本側はフェアトレード商品の販路拡大に力を注ぎました。京都精華大学の学生さんとの協働でクリスマスカードの新デザインを開発。その取り組みを、テレビ番組で取り上げていただくことができました。また、担当職員と理事の努力により、髙島屋や阪急百貨店などでもカードを取り扱ってもらえるようになりました。

担当職員はボランティアの皆さんと協力して、目の回る忙しさのクリスマスシーズンを乗り切り、前年度の1．6倍の売り上げを達成してくれました。本当に大きな躍進の年になったと思います。

見えてきた組織風土の問題

2017年頭、日本の職員の間で「なんだかしんどい」という声があがりました。私は事務局長としてそのしんどさの原因を見つけようと、長いこと悩みました。そんな中で気づいたのは、「助け合ったり、悩みを相談して助言しあったりする風土がない」ということでした。

アクセス日本では、4人の職員がそれぞれ別の業務を担当しており、同じ空間にいても、ほかの職員の仕事に関わる機会がほとんどありませんでした。ただひたすら自分の仕事と向き合い、成果を出す。そのことが、一人ひとりが問題を抱え込み、助け合えないという結果を生み出していたのです。

事務局長になって6年、こんな基本的な問題にさえ、今まで気付けずにきたのでした。そんな環境でも一生懸命、働いてきてくれた元職員の皆さんに、あらためて感謝しています。

2017年度、日本事務局は職員同士で助け合って働く風土づくりに励み、フィリピンの人々への支援の充実につなげていきたいと思います。

フェアトレード事業部

FT 事業部/Fair Trade Division

ついに大手小売店での販売が実現！

フェアトレード事業部では 2016 年度、長年の目標だった大手小売店（阪急うめだ本店、洛西タカシマヤ、大垣書店三条店）でのクリスマスカードの販売が実現しました。各種イベントやフリーマーケットでの販売も継続し、売上総額は 158 万円と、前年度の 1.6 倍になりました。

ＮＧＯ　×　大学　のコラボレーション

京都精華大学の学生さんとのデザイン開発コラボレーション企画は 3 年目となりました。学生デザイナーから提案いただいたデザインを、3 月のフィリピン出張で現地へ持って行き、生産者とともに試作。できあがった試作品を日本に持ち帰って最終調整を行い、試行錯誤の末に新デザインが確定しました。こうして完成した新クリスマスカードは、2017 年度カタログに掲載し、百貨店やフェアトレードショップ、雑貨店、文具店などにて販売いただけるよう、各店舗に働きかけていく予定です。

フェアトレードを知ってもらうために

2016 年度も、あべのハルカスをはじめ、さまざまな場所で出店し、国際協力にあまり関心のない層の方々にもフェアトレードを知ってもらえるよう努めました。

京エコロジーセンターでのイベントでは、子ども連れの家族が多く参加して下さり、子どもたちはココナツ殻を磨いてオリジナルのチャーム作りを楽しんでいました。同時に、ご家族の方には、フィリピンの現状やフェアトレードについて知ってもらうことができ、多くの方に商品を購入していただきました。

ただ、こうしたイベント等での販売を担うスタッフの確保には苦労しました。また、お客様から「価格の何％が生産者に入るの？」といった質問をいただいた時、うまく答えられない場面がありました。商品の背景についてしっかり伝えていけるよう、スタッフのための学習会が必要となっています。

上：学園祭での販売を担ってくれた龍谷大学の学生ボランティアの皆さん
下：旧事務所でミーティングをするフェアトレード事業部のボランティア、インターン、職員

ボランティアの皆さんとともに

2016 年度は、新たに採用した職員 1 名と、ボランティア 3 名、インターン 1 名の体制で取り組みました。加えて、秋口に大量に届くクリスマスカードの検品では、元スタッフや他チームのスタッフ、元スタディツアー参加者に声をかけ、1 日だけの検品ボランティアとして検品作業にご参加いただきました。作業を通じて、フェアトレード事業の成果や課題についての理解を深めていただけたと思います。

フェアトレードにできること

1．ダイレクトに現金収入につながる

貧困に苦しむ人は働きたくても仕事がない、がんばって働いても低収入…ということが大きな悩み。フェアトレードで仕事の機会を増やしたり、公正な価格を支払うことで、その悩みを緩和できます。

2．生産者の自立につながる

フェアトレードでは単純に商品を売買して買い支えるだけでなく、生産技術向上や組織の運営能力向上のための支援も行います。能力向上によって、将来的には NGO などに頼らずとも継続的に生産・取引できるようになります。

3．生産者の自信・自尊心につながる

フェアトレードはお金や物を無償で与える支援ではありません。生産者は自分で働いて稼ぐ喜びや自信を得ることができます。またフェアトレードはビジネスとして成立することを目指しているので、「支援される側」と「支援する側」ではなく、ビジネスパートナーとして対等な関係を築くことができます。

4．貧しい地域の人々に夢を与える

いきいき働く生産者の姿を見て、まわりの大人や子どもたちが「自分も頑張れば何かできるかも」、「貧困から抜け出せるかも」と夢を持つきっかけになる可能性があります。

5．貧困問題に関心を持ってもらうきっかけになる

普段、国際協力や貧困問題に関して関心が低い人にも、「かわいい！」「おいしそう！」という視点からフェアトレード商品を手に取ってもらえる可能性があります。フェアトレード商品を広めることで、普段何気なく購入している商品の背景に貧しい人々がいるかもしれないと気づいてもらうことができます。

【フェアトレード事業部とは】　①貧困地区における雇用の創出と現金収入の確保、②生産者団体へのエンパワーメント、③貧困問題を日本の市民に伝え、解決手段としてフェアトレードを推進する、という 3 点を目的として活動を行っています。具体的には、ペレーズ地区でフェアトレード生産者団体の組織化、商品開発支援、商品仕入れと管理、フリーマーケット等での販売、取引先の拡大、日本でのフェアトレードの普及などを行っています。

開発教育チーム

ＧＥＴ ／Global Education Team

誰かの行動に結びつくような活動に

GET は 2016 年度、4 つの中学・高校で計 165 人を対象に、訪問授業をさせていただきました。

「フィリピンの現状を知ってもらいたい」「何か行動を起こしてもらいたい」という想いが軸となっている私たちの活動ですが、ただその思いだけでは独りよがりになってしまいます。学習会を開いて知識をつけたり、わかりやすく興味を持ってもらえる伝え方の工夫を重ねながら、訪問授業に臨みました。

生徒の皆さんの感想文などを読むと、多くの人の心を動かせたようです。今後も、さらに伝える力に磨きをかけ、「貧困をなくすために自分も行動する」という人を一人でも増やしていきたいと思います。

Facebook ページでの発信も

2016 年度は、Faecbook ページを開設し、活動の様子を写真と文字で発信することもできました。当初は発信だけでしたが、少しずつ、過去のスタッフやサポーター、元スタディツアー参加者の方々などからの「いいね！」やコメントをいただけるようになっています。今後は、訪問授業の際に Facebook ページにアクセスするための QR コードを載せたパンフレットを配るなどして、授業を受けてくださった生徒さんたちとの関係作りに生かしていきたいと考えています。

2017 年度もメンバー一同、楽しくそして真面目に、活動の幅を広げていきたいと思っています。

Facebook GET-Global Education Team で検索

寺戸中学校での授業を終えて、校門にて

開発教育チーム（GET） フィリピンの貧困問題の現状や原因について、教育現場での訪問授業を中心とした様々な場で「伝える」活動を行っています。スタディツアー等でフィリピンを訪問した学生が中心となり、実際に自分の目で見て肌で感じたフィリピンのリアルな現状を伝える事を重視しています。フィリピンと日本の教育現場をつなぐ懸け橋として、貧困問題に対して行動を起こす人を一人でも多く増やすことを目標に掲げています。

スモーキーマウンテン支援チーム

ＦＩＴ ／Fine Interaction Team at Smoky Mountain

「遣（けん）トン使（し）」を原動力にして

2016 年度も、中心的な活動となったのは、フィリピンのプロジェクト地を訪問し、住民の方々や現地スタッフと交流する遣（けん）トン使（し）（トンド地区などにスタッフを派遣する、現地訪問活動）でした。夏休みと春休みに学生スタッフが中心となって現地を訪問。支援している地区のリアルな状況を把握すると同時に、住民の方々との交流を深めることが、プログラムを実施する上でとても大切なことだと再確認しました。

そうして現地での体験を原動力として取り組んでいるのが、国内での活動です。2016 年度は、現地で自分たちで撮影した写真を使った写真展を 2 回開催したほか、PEACE チームと合同でチャリティフットサル大会を開催したり、活動にご協力くださっている豊中第八中学校の朝礼にてトンド地区のお話をしたりと、さまざまな活動を実施しました。また、2015 年度にスタートした奨学金プログラムについては、奨学生から届いたサポーター宛てのお手紙を日本語に翻訳するという役割を担いました。

トンド地区にて、現地の若者たちと協力して地図づくりに取り組む FIT メンバー

2017 年度も現地の人々の夢や意思を大切に、前年度の積み重ねと学びを活動に反映させ、工夫を凝らしながら楽しく活動をしていきたいと思います。

スモーキーマウンテン支援チーム（FIT） マニラのゴミ捨て場周辺で暮らす人々に「自立出来るきっかけを作る」ことを目的に、日本でのイベント開催を通じた資金調達、現地のことを伝え支援者を増やすための広報活動を中心に取り組んでいます。メンバー一人一人が現地への理解と関係を深めて活動に参加することを大切に、大学生・社会人の仲間と刺激し合いながら楽しく活動しています。

東京支部　Tokyo Branch

社会人・学生が協力し、関東で活動

就職を機に関西から関東へ引っ越した会員・スタッフや、関東在住のスタディツアー参加者からなる東京支部は、東京で開催される国際協力イベントへの出展や、主催イベントの企画を通じて、アクセスの協力者の輪を広げることを目標に、活動しています。

2016 年度は、5 月に「JICA 地球ひろば 10 周年記念感謝祭」、10 月に「グローバルフェスタ」に出展し、フィリピンの現状やアクセスの活動について伝えながら、フェアトレード商品の販売を行いました。

前年度は、なかなかミーティングを開催できずにいましたが、2016 年度は新メンバーが複数入ったことや、代表が交代したこともあり、ミーティングを定期的に開催して固定メンバーで活動できるようになりました。また、東京支部メンバーと京都の事務局スタッフとが参加してスカイプ（インターネットを使った無料テレビ電話）を使ったミーティングも行いました。京都から離れているため、なかなか「アクセスの今」が感じられず孤立しがちな東京支部ですが、このスカイプミーティングのおかげで、今の組織の課題や成果を知ることができ、東京支部の活動を今後どうしていくかについて考える良い機会となりました。

今後も、関東からのスタディツアー参加者の方々も誘って、東京支部の活動を充実させていきたいと思っています。

グローバルフェスタのブースにて

ピナツボ支援チーム　ＰＥＡＣＥ

Pinatubo Educational and Agricultural Community Empowerment

ピナツボ地区の子どもたちに教育を

2010 年に発足した PEACE チームは、ピナツボ火山被災地であるパンパンガ州ポーラック町ミトラ地区でアクセスが運営する幼稚園などを日本から支えています。2016 年度は、幼稚園や社会教育センターの運営費のうち 10 万円を集めることを目標に、関西地域で活動を行いました。

まず 6 月には、メンバーで学習会を行い、ピナツボ地区の歴史や、そこでアクセスが実施している事業とその予算について学び、PEACE としての事業計画を立てました。その後、フリーマーケット 3 回、フットサル大会を 1 回開催（FIT チームとの共同事業）しました。

フリーマーケットに出品した品物は、メンバーや他チームのボランティアスタッフ、サポーターの皆さまから提供いただいた寄付品です。初出店のメンバーが多かったこともあり、収益がほとんどない回もありましたが、並べ方や呼び込み方などを工夫して、収益を増やす努力を重ねました。

結果、3 回のフリーマーケット出店で 15,000 円、フットサル大会で 18,000 円の収益をあげ、合計 33,000 円をピナツボ地区の教育支援として子どもたちに届けることができました。目標の 10 万円にはおよびませんでしたが、この経験を次年度の活動につなげていきたいと考えています。

事務所でフリーマーケット出店の準備をするメンバー

ピナツボ支援チーム（PEACE） は、フィリピン・パンパンガ州ポーラック町ミトラにある、ピナツボ火山被災地を支援しています。1991 年の火山噴火とその後の土石流で大きな被害を受け、被災後 16 年もの間、小学校すらなかった地域で、学校・幼稚園建設、給食の提供、社会教育セミナーの開催などを行っています。PEACE チームはそうした活動を支える資金を、楽しみながら工夫して集めています。

翻訳チーム　Volunteers for translation

サポーター交流会の企画という挑戦

2016 年度、アクセスは 2 地区 210 人の子どもたちに奨学金プログラムを提供し、小学校就学をサポートしました。この奨学生の子どもたちと、日本のサポーターの間では、メッセージカードなどのやりとりが行われています。1 年間でやりとりされる書類の数は、1000 点以上。ペレーズ・アペロクルス支援チーム（FACT）の学生スタッフと、翻訳チームの社会人スタッフが分担し、翻訳に取り組みました。

翻訳チームの活動も 3 年目となり、翻訳にもずいぶん慣れてきたため、2016 年度は奨学金サポーターの皆さまを対象とした交流イベントの企画に取り組みました。サポーターの方々にぜひ知っていただきたことのほか、きっと知りたいであろうことを想像したりしながら、イベントの内容を企画。チラシや看板、ご招待メールの内容まですべてメンバーが準備して、2017 年 4 月 15 日に開催することができました。

日本のサポーターさんから届き、翻訳ボランティアが訳した手紙を受け取った奨学生

引っ越しや出産、体調不良などで複数のメンバーが活動に参加できなくなり、少し寂しくなった 2016 年度でしたが、残ったメンバーの創意工夫により新しいチャレンジができました。2017 年度も社会人のパワーを発揮していただける場として、発展させていきたいと思います。

カフェイベント実行委員会

スタッフのライフストーリーに沿って
フィリピンの現状とアクセスの活動を伝える

2014 年度に立ち上げたカフェイベント実行委員会は、事務局スタッフ、ボランティアスタッフ、インターンが参加し、「リラックスした雰囲気で国際協力について学び、考え、行動につなげるイベント」を企画・運営しています。

2016 年度は、これまでの経験を踏まえつつ、他団体の人気イベントからも良い点を学び、アクセスの中心メンバーのライフストーリーに沿う形で、フィリピンの現状やアクセスの活動を伝えるトークライブを企画しました。

1 年間で、77 名の方々が参加

多くの方に参加していただくためには、興味をひくイベントタイトルをつけることが欠かせません。実行委員会のメンバーが知恵を出し合い、2 時間かけて決まったタイトルが「フィリピンの子どもとアクセス　35 才女性事務局長の奮闘ストーリー」。おかげで、たくさんの方に関心を持っていただくことができ、1 年間で 77 名の方にご参加いただきました。

日頃活動を支えてくださっているサポーターの方々には、「ふだん紙面でしかわからなかったアクセスの活動を、写真や動画で知れてよかった」と感想をいただきました。また、初めてアクセスを知ったという参加者の方からは、「スタディツアーに参加したり、サポーターとして協力されている方のお話が聞けて、とてもよかった」というご意見をいただきました。

イベントでは、話を聞いてもらうだけではなく、参加者同士の交流の時間も大切にしています。

2016 年度からは司会、トークのインタビュアー、受付などあらゆる役割をボランティアの皆さんに担ってもらうようにし、また長年のサポーターの方には、最後の挨拶をお願いしました。こうした工夫のおかげもあってか、2016 年度はイベント参加後、7 名の方が入会またはご寄付をしてくださいました。

こうして少しずつ成果を出せるようになったカフェイベント実行委員会ですが、2017 年 3 月末で全メンバーが大学を卒業し、これまでのようには活動できなくなりました。現在は、旧メンバーの経験を活かしつつ、新メンバーで活動を続けています。

メディア掲載

2016 年度は、新聞に 11 回、テレビで 1 回、取り上げていただきました。

毎日新聞　2016 年 9 月 27 日

あなたの愛の手を

海を越えて

<629>

フィリピン・ペレーズ

ジャスティン・エイロン・モラレス君7歳

笑顔見たい

ペレーズ　マニラ　フィリピン

3人きょうだいの末っ子であるジャスティン君は、パイロットを夢見る男の子。両親はココナツを栽培していますが、家族を養うには十分な収入を得られず、時には天然の蜂蜜を取って売ってもいます。母は十代で結婚して学校を中退せざるをえなかったので、ジャスティン君には教育をしっかり受けさせてやりたいと考えています。ご支援ください。【中川哲也】

◇フィリピン　約7100の島からなる共和国で、国民の4割が1日2ドル以下で生活しているとされる。小学校は義務教育で原則無償だが、約3割の子どもたちが貧困などの理由で小学校を卒業できない。NPO法人アクセスは1988年に設立。ケソン州アラバット島の貧しい農漁村、ペレーズに暮らす子どもの初等教育を支援している。

◇フィリピン児童への教育支援は、NPO法人「アクセス」（京都市伏見区、075・643・7232）へ。奨学金は年間1万5000円で支援できます。詳細はホームページ（http://www.pseg.sametime.jp/accs/）。

ABC 朝日放送　CAST　　2016 年 12 月 14 日

特集「フィリピンとつながるクリスマスカード」

［新聞掲載記事一覧］

毎日新聞	2016 年 8 月 23 日	あなたの愛の手を
毎日新聞	2016 年 9 月 6 日	あなたの愛の手を
毎日新聞	2016 年 9 月 13 日	あなたの愛の手を
毎日新聞	2016 年 9 月 27 日	あなたの愛の手を
毎日新聞	2016 年 10 月 1 日	フィリピンの子ども支援へ　8 日・滋賀でトークライブ　（大阪版）
毎日新聞	2016 年 10 月 2 日	比の子供支援　活動知って　9 日 NPO スタッフ体験語る会　（滋賀版）
毎日新聞	2016 年 10 月 3 日	NPO が現状トーク　フィリピンの教育支援訴え（京都版）
京都新聞	2016 年 11 月 19 日	「幸せのために働いて」　寺戸中　国際協力の仕事聞く
京都新聞	2016 年 11 月 29 日	途上国の貧困　関心を
まにら新聞	2017 年 1 月 3 日	麻薬撲滅も「草の根」で　日系 NPO　石川雅国さん
まにら新聞	2017 年 3 月 6 日	初めて見る楕円球追う　ラグビー元日本代表ら教室開催　マニラ市で貧困層の子どもに

あなたの 1 日 1 回のクリックが、子どもたちの力に。

無料でできる支援、Gooddo

毎日、誰でも、手軽に、クリックするだけ。

自己負担も登録手続きもなしで、NPO や NGO を応援できる、インターネット上の仕組みです。

1．インターネット上で「gooddo　アクセス」と検索

2．画面を下にスクロールして、「応援する」という赤いボタンを毎日 1 回クリック。クリックの度にポイントが貯まり、ポイントに応じた支援金（企業からの広告費）がアクセスに入ります。

2016 年度は 117,820 円（給食にすると 2,945 食分）の支援を届けていただきました。
皆さまの毎日のクリックで、支援金の額が変化します。ぜひ、引き続きご協力ください。

2016年度決算報告

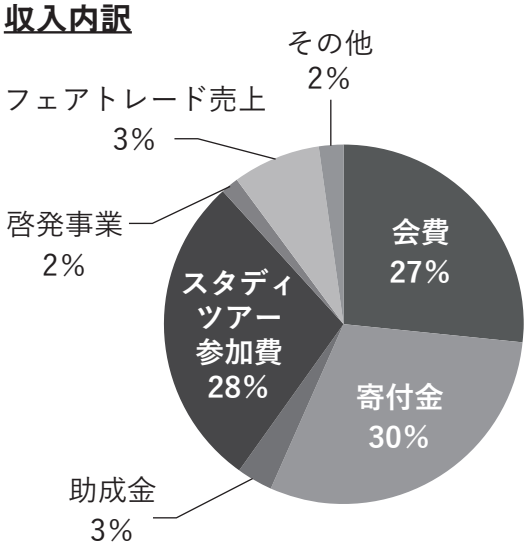
活動計算書　自 2016 年 4 月 1 日　至 2017 年 3 月 31 日

（単位：円）

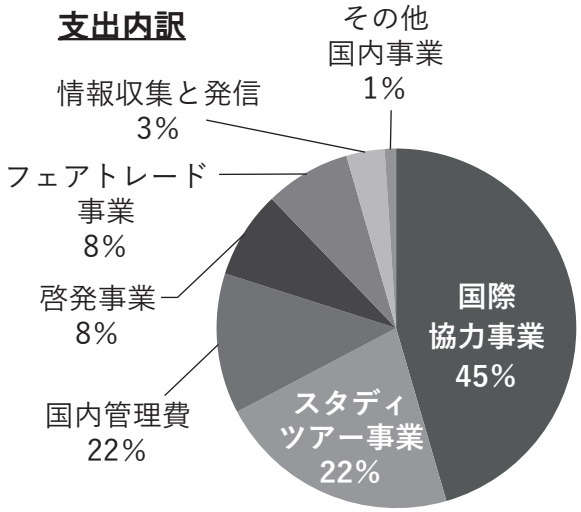
科　目	金　額		
Ⅰ 経常収益			
1. 会費			
正会員受取会費	550,000		
アクセス・サポーター会費	1,698,000		
奨学金サポーター会費	2,952,458		
購読会員受取会費	12,000		
ﾏﾝｽﾘｰ会員受取会費	143,000	5,355,458	
2. 寄付金			
一般受取寄付金	2,842,805		
事業受取寄付金	3,207,772	6,050,577	
3. 助成金等			
受取民間助成金	600,000		
受取補助金	40,000	640,000	
4. 事業収益			
途上国の現実に学ぶ事業	5,704,526		
国際協力に関する知識の普及・啓発事業	330,290		
ﾌｪｱﾄﾚｰﾄﾞ事業	1,587,483		
国際協力事業	143,241		
その他国内事業	307,055	8,072,595	
5. その他収益			
受取利息	125	125	
経常収益計			20,118,755
Ⅱ 経常費用			
1. 事業費			
(1)人件費			
給料手当	4,475,895		
ﾎﾞﾗﾝﾃｨｱ謝礼	75,841		
通勤費	264,830		
法定福利費	579,568		
人件費計	5,396,134		
(2)その他経費			
海外事業費	12,988,835		
売上原価	629,739		
広報宣伝費	2,000		
業務委託費	54,000		
諸謝金	11,000		
印刷製本費	314,047		
会議費	23,809		
旅費交通費	654,716		
通信運搬費	603,665		
消耗品費	335,640		
水道光熱費	102,103		
地代家賃	509,909		
賃借料	109,260		
減価償却費			
保険料	43,430		
出展費用	33,930		
支払手数料	25,044		
租税公課	1,450		
その他経費計	16,442,577		
事業費計		21,838,711	
2. 管理費			
(1)人件費			
給料手当	756,300		
通勤費	43,960		
法定福利費	62,930		
福利厚生費	17,279		
人件費計	880,469		
(2)その他経費			
業務委託費	143,200		
印刷製本費	302		
会議費	11,899		
旅費交通費	53,472		
通信運搬費	57,313		
消耗品費	79,087		
水道光熱費	28,798		
地代家賃	143,821		
賃借料	4,200		
諸会費	70,000		
研修費	4,120		
租税公課	2,200		
支払手数料	171,463		
その他経費計	769,875		
管理費計		1,650,344	
経常費用計			23,489,055
Ⅲ 当期経常増減額			△ 3,370,300
Ⅳ 経常外収益			
事務所移転補償金	1,000,000		
経常外収益計			1,000,000
税引前当期正味財産増減額			△ 2,370,300
法人税、住民税及び事業税			70,000
当期正味財産増減額			△ 2,440,300
前期繰越正味財産額			8,413,524
次期繰越正味財産額			5,973,224

※当該年度は特定非営利活動に係る事業以外の事業については実施していません。

収入内訳



支出内訳



2016年度決算報告

貸借対照表　2017年3月31日現在

（単位：円）

資産の部 科目			金額
【流動資産】			
（現金・預金）	現　金		481,112
	普通 預金		6,399,838
		現金・預金 計	6,880,950
（売上債権）	売 掛 金		61,430
	未 収 金		197,220
		売上債権 計	258,650
（棚卸資産）	棚卸 資産		931,586
	貯 蔵 品		272,831
		棚卸資産 計	1,204,417
（その他流動資産）			
	前 渡 金		235,003
	仮 払 金		18,108
	その他流動資産 計		253,111
		流動資産合計	8,597,128
【固定資産】			
（有形固定資産）	什器 備品		1
		有形固定資産 計	1
（投資その他の資産）	保 証 金		200,000
	投資その他の資産 計		200,000
		固定資産合計	200,001
資産の部合計			**8,797,129**

負債・正味財産の部 科目	金額
【流動負債】	
未 払 金	612,549
前 受 金	1,955,141
預 り 金	6,215
仮 受 金	180,000
未払法人税等	70,000
流動負債 計	2,823,905
負債の部合計	**2,823,905**
正味財産の部	
【正味財産】	
前期繰越正味財産額	8,413,524
当期正味財産増減額	−2,440,300
正味財産 計	5,973,224
正味財産の部合計	**5,973,224**
負債・正味財産の部合計	**8,797,129**

財務諸表の注記　（2016年4月1日から2017年3月31日）

1．重要な会計方針
財務諸表の作成は、NPO法人会計基準（２０１０年７月２０日　２０１１年１１月２０日一部改正　ＮＰＯ法人会計基準協議会）によっています。
(1)　固定資産の減価償却の方法
有形固定資産は、定額法で償却をしています。
(2)　棚卸資産の評価基準および評価方法
棚卸資産の評価基準は原価基準により、評価方法は先入先出法によっています。

2．事業別損益の状況
事業別損益の状況は以下の通りです。

（単位：円）

科目	途上国の現実に学ぶ事業（スタディツアー）	情報収集・発信事業	国際協力に関する知識の普及・啓発事業	フェアトレード事業	国際協力事業	市民団体への協力	その他国内事業	事業部門計	管理部門	合計
Ⅰ　経常収益										
1.　受取会費	0	12,000	93,000	159,000	3,505,458	0	0	**3,769,458**	1,586,000	**5,355,458**
2.　受取寄付金	0	0	0	10,563	3,197,209	0	128,523	**3,336,295**	2,714,282	**6,050,577**
3.　受取助成金等	0	0	0	0	600,000	0	0	**600,000**	40,000	**640,000**
4.　事業収益	5,704,526	0	330,290	1,587,483	303,721	0	146,575	**8,072,595**	0	**8,072,595**
5.　その他収益	0	0	0	9	2	0	0	**11**	114	**125**
経常収益計	**5,704,526**	**12,000**	**423,290**	**1,757,055**	**7,606,390**	**0**	**275,098**	**15,778,359**	**4,340,396**	**20,118,755**
Ⅱ　経常費用										
(1)　人件費										
給料手当	645,265	334,582	788,656	1,746,026	817,973	0	143,393	**4,475,895**	756,300	**5,232,195**
ボランティア謝礼	0	0	31,372	44,469	0	0	0	**75,841**	0	**75,841**
通勤費	6,947	21,950	33,003	196,238	5,146	0	1,546	**264,830**	43,960	**308,790**
法定福利費	99,446	51,569	121,546	211,251	73,654	0	22,102	**579,568**	62,930	**642,498**
福利厚生費	0	0	0	0	0	0	0	**0**	17,279	**17,279**
人件費計	**751,658**	**408,101**	**974,577**	**2,197,984**	**896,773**	**0**	**167,041**	**5,396,134**	**880,469**	**6,276,603**
(2)　その他経費										
海外事業費	3,800,967	0	0	0	9,187,868	0	0	**12,988,835**	0	**12,988,835**
売上原価	0	0	0	628,022	1,717	0	0	**629,739**	0	**629,739**
業務外注費	0	0	0	54,000	0	0	0	**54,000**	143,200	**197,200**
諸謝金	0	0	0	11,000	0	0	0	**11,000**	0	**11,000**
広報宣伝費	2,000	0	0	0	0	0	0	**2,000**	0	**2,000**
印刷製本費	47,860	247,306	5,010	7,841	2,210	0	3,820	**314,047**	302	**314,349**
会議費	8,800	0	15,009	0	0	0	0	**23,809**	11,899	**35,708**
旅費交通費	210,182	1,540	8,355	124,424	281,240	28,975	0	**654,716**	53,472	**708,188**
通信運搬費	84,997	317,120	19,241	119,026	60,058	0	3,223	**603,665**	57,313	**660,978**
地代家賃	56,601	27,533	71,385	158,583	184,078	0	11,729	**509,909**	143,821	**653,730**
水道光熱費	11,333	5,512	14,295	31,754	36,862	0	2,347	**102,103**	28,798	**130,901**
出展費用	0	0	0	33,930	0	0	0	**33,930**	0	**33,930**
研修費	0	0	0	0	0	0	0	**0**	4,120	**4,120**
賃借料	0	0	21,780	1,080	86,400	0	0	**109,260**	4,200	**113,460**
新聞図書費	0	0	0	0	0	0	0	**0**	0	**0**
減価償却費	0	0	0	0	0	0	0	**0**	0	**0**
消耗品費	46,485	15,209	39,149	108,656	119,710	0	6,431	**335,640**	79,087	**414,727**
保険料	29,110	0	0	4,280	10,040	0	0	**43,430**	0	**43,430**
諸会費	0	0	0	0	0	0	0	**0**	70,000	**70,000**
租税公課	0	0	0	1,450	0	0	0	**1,450**	72,200	**73,650**
支払手数料	4,160	0	0	1,916	18,968	0	0	**25,044**	171,463	**196,507**
雑費	0	0	0	0	0	0	0	**0**	0	**0**
その他経費計	**4,302,495**	**614,220**	**194,224**	**1,285,962**	**9,989,151**	**28,975**	**27,550**	**16,442,577**	**839,875**	**17,282,452**
経常費用計	**5,054,153**	**1,022,321**	**1,168,801**	**3,483,946**	**10,885,924**	**28,975**	**194,591**	**21,838,711**	**1,720,344**	**23,559,055**
Ⅲ経常外収益										
事務所移転補償金	0	0	0	0	0	0	0	**0**	1,000,000	**1,000,000**
経常外収益計	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**1,000,000**	**1,000,000**
Ⅳ　当期経常正味増減額	**650,373**	**△ 1,010,321**	**△ 745,511**	**△ 1,726,891**	**△ 3,279,534**	**△ 28,975**	**80,507**	**△ 6,060,352**	**3,620,052**	**△ 2,440,300**

3　使途等が制約された助成金等の内訳
使途等が制約された助成金等の内訳は以下の通りです。
当期正味財産は5,973,224円、そのうち499,969円は使途が制約される財産です。したがって、使途が制約されていない正味財産は5,473,255円となります。

（単位：円）

内容	期首残高	当期増加額	当期減少額	期末残高	備考
事業指定寄付金	499,969	0	0	499,969	台風31号被災者支援
事業指定寄付金	0	290,874	290,874	0	パヤタス幼稚園支援
事業指定寄付金	0	430,098	430,098	0	トンド奨学金支援
近畿労働金庫「心のそしな」事業	0	1,496,000	1,496,000	0	ペレーズ・ピナツボ給食教育支援
庭野平和財団活動助成金	200,000	0	200,000	0	ピナツボ子どもに優しいコミュニティ建設（期首残高は2016年4月～7月分）
まちづくり地球市民財団助成金	68,640	0	68,640	0	フェアトレード事業支援（期首残高は2016年4月分）
連合「愛のカンパ」助成金	0	500,000	500,000	0	パヤタス幼稚園支援
JEC連合「スマイルbyJEC」助成金	0	100,000	100,000	0	パヤタス幼稚園支援
合　計	**768,609**	**2,816,972**	**3,085,612**	**499,969**	

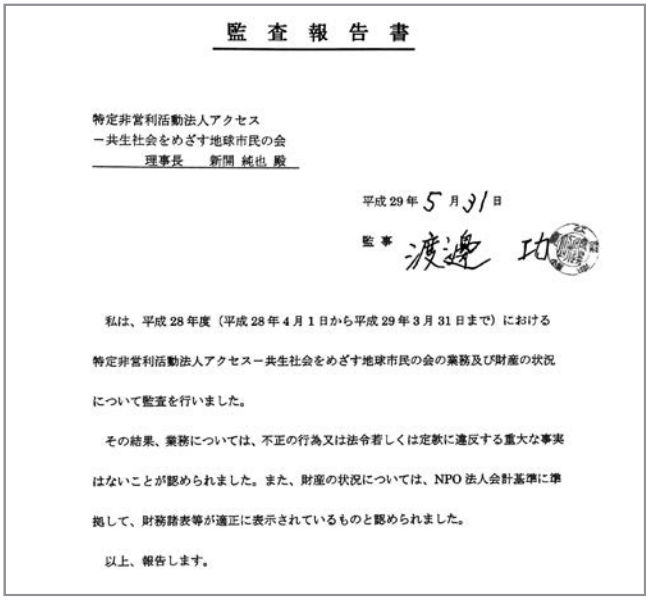
財産目録

2017 年 3 月 31 日現在

（単位：円）

《資産の部》		
【流動資産】		
（現金・預金）		
現　　金	481,112	
事務局	(365,300)	
ピナツボ支援チーム	(27,753)	
スモーキーマウンテン地区支援チーム	(53,985)	
フェアトレード事業部	(27,919)	
開発教育支援チーム	(0)	
外貨	(6,155)	
普通　預金	6,399,838	
三菱東京UFJ銀行京都中央支店	(2,194,014)	
三菱東京UFJ銀行京都支店(FIT)	(481,561)	
ゆうちょ銀行	(1,172,075)	
関西アーバン銀行藤森支店(FTT)	(1,773,751)	
近畿労働金庫伏見支店	(280,219)	
郵便振替	(498,218)	
現金・預金 計	6,880,950	
（売上債権）		
売　掛　金	61,430	
3月フェアトレード商品翌月入金分	(61,430)	
未　収　金	197,220	
3月会費翌月入金分(JCB・クラウドペイメント)	(188,420)	
2017年2月ツアー事前・事後学習会　懇親会参加費	(8,800)	
売上債権 計	258,650	
（棚卸資産）		
棚卸　資産	931,586	
FT商品	(894,154)	
FIT商品(クリアファイル)	(12,446)	
FIT商品(タオル)	(24,986)	
貯　蔵　品	272,831	
書き損じハガキ	(106,117)	
切手等	(166,714)	
棚卸資産　計	1,204,417	
（その他流動資産）		
前　渡　金	235,003	
ACCESSフィリピン　FT事業部前渡金	(235,003)	
仮　払　金	18,108	
FT2016年2月ワンフェス出展料	(18,108)	
その他流動資産　計	253,111	
流動資産合計		8,597,128
【固定資産】		
（有形固定資産）		
什器　備品(FT事業部PC)	1	
有形固定資産　計	1	
（投資その他の資産）		
保　証　金	200,000	
投資その他の資産　計	200,000	
固定資産合計		200,001
資産の部　合計		8,797,129
《負債の部》		
【流動負債】		
未　払　金	612,549	
3月分通信運搬費(料金後納郵便)	(536)	
3月分購入先支払い(アスクル)	(1,273)	
3月分給与	(435,272)	
3月分通勤交通費	(35,200)	
未払水道代2015年9月-2017年2月分	(36,000)	
未払管理費2015年3月-7月分	(51,000)	
ボランティア謝礼(FT)	(44,468)	
ツアー懇親会参加費　立替分	(8,800)	
前　受　金	1,955,141	
奨学金次年度分	(1,947,141)	
アクセス・サポーター費次年度分	(8,000)	
預　り　金	6,215	
源泉所得税	(6,215)	
仮　受　金	180,000	
アクセスフィリピンへの事業指定寄付金	(180,000)	
未払法人税等	70,000	
流動負債　計		2,823,905
負債の部　合計		2,823,905
正味財産		5,973,224

監査報告書



監　査　報　告　書

特定非営利活動法人アクセス
ー共生社会をめざす地球市民の会
理事長　　新開 純也 殿

平成 29 年 5 月 31 日

監事 渡邊 功

私は、平成 28 年度（平成 28 年 4 月 1 日から平成 29 年 3 月 31 日まで）における特定非営利活動法人アクセスー共生社会をめざす地球市民の会の業務及び財産の状況について監査を行いました。

その結果、業務については、不正の行為又は法令若しくは定款に違反する重大な事実はないことが認められました。また、財産の状況については、NPO 法人会計基準に準拠して、財務諸表等が適正に表示されているものと認められました。

以上、報告します。

2017 年度事業計画

フィリピン

2017年度事業の概要

2017 年度フィリピンでは、4 つの事業地での活動を継続し、教育支援・生計支援プログラムを実施するとともに、プログラムに参加する住民のエンパワメントをすすめます。特に組織化の強化、活動の質の向上に重点を置きます。

事業地ごとの取り組み課題と目標

2017 年度は、前年度の事業の中で現れた課題の解決を図りつつ、これまでの事業を継続・強化します。

ペレーズ地区	16 年度実績	17 年度予定
奨学金･給食プログラム 子どもに優しいコミュニティ作り	184 人	185 人
フェアトレードプログラム	11 人	11 人
青年会プログラム	15 人	15 人
マイクロファイナンス（少額融資）プログラム	15 人	8 人

トンド地区	16 年度実績	17 年度予定
青年会プログラム	49 人	50 人
奨学金プログラム	25 人	35 人

ピナツボ地区	16 年度実績	17 年度予定
教育･給食プログラム（小学校･幼稚園）	203 人	205
幼稚園年少組の運営	28 人	20 人
子どもに優しいコミュニティ作り	56 人	56 人
社会教育（主婦･青年）	19 人	20 人

パヤタス地区	16 年度実績	17 年度予定
幼稚園年少組の運営	50 人	50 人

1．農漁村　ペレーズ地区

奨学金プログラムでは、集落ごとの保護者会の組織化を進め、「子どもに優しいコミュニティ作り」を日々の生活の中で実践していく活動に取り組みます。また、土曜補習授業も、ビジュアルアートやライフスキルトレーニングを用いたものを集落単位で実施することで、子どもたちの生きる力を高める方向で発展させます。

フェアトレードプログラムでは、担当スタッフおよび生産者の能力強化に取り組みます。また、マニラ事務局所属のスタッフを新たに配置して、欧米での販路拡大の可能性を探ります。

マイクロファイナンスでは、順調に返済ができている 5 名と、少しずつでも返済を続けている 3 名に限定して、最小限の規模で事業を継続します。

青年会は植樹や清掃など地域への貢献活動を継続すると共に、子どもの権利や社会問題についてのワークショップやディスカッションに力を入れて活動します。

2．都市スラム　トンド地区

青年会プログラムは、トンド・スモーキーマウンテン地区周辺に暮らす若者を対象に文化活動や地域貢献活動を通じた組織化を継続します。3 年目となる奨学金プログラムは、対象者を 35 名まで増やして継続します。

3．火山被災地　ピナツボ地区

小学校・幼稚園年長組への教育・給食支援を継続します。また社会教育センターにおいて、幼稚園年少組の運営および主婦・青年を対象とした社会教育を継続します。3 年目となる、子どもに優しいコミュニティづくりについては、啓発セミナー8 回、スローガンの策定、パンフレット作成、子どもの権利に関する委員会の設立に取り組みます。

4．都市スラム　パヤタス地区

幼稚園年少組の運営を行い、週 5 日の授業と給食、月 1 回の保護者会ミーティング、子どもの権利と福祉に関するセミナーを継続します。

5．管理部門

新スタッフを 2 名採用（奨学金担当／フェアトレード担当）すると同時に、ペレーズ地区コーディネーターに事務局次長を兼務してもらい、以下の重点課題に取り組みます。

1）　現金管理ルールの着実な実施　　2）　就業規則の改訂　　3)ペレーズ奨学金の中期計画の作成

日本

２０１７年度事業の概要

2017 年度は、支援者の輪を広げる活動に力を入れて取り組みます。特に、物資の寄付を広く呼びかけ、気軽にできる国際ボランティアの裾野を広げます。また、そこから少しずつアクセスの活動を知っていただき、団体の活動全体を応援して下さる方を増やすことにつなげることをめざします。

１．地球市民教育事業

フィリピンの貧困の現状、貧困や戦争の原因、そして貧困や戦争の問題をアクセスがどのように解決しようとしているのか。これらを発信し、共感してくれる人を増やしていくのが「地球市民教育」です。

2017 年度もアクセス主催イベント（年 5 回、90 名の参加）を活動の柱として継続開催します。また、4 回のスタディツアーの他に、高校のフィリピン研修を受け入れます。

ボランティアスタッフやインターンの伝える力の向上を目的に、職員が現地プロジェクトの成果や課題を共有する機会を増やし地球市民教育活動の質の向上をめざします。

２．フェアトレード事業

2017 年度の売上目標を 213 万円とし、売り上げ拡大に向け以下の課題に取り組みます。

1） カード生産：品質向上と新商品開発（10 種／5800 枚）
2） カード販売：既存大型店との取引継続と、新規取引先の拡大により、143 万円の売り上げをめざす
3） ココナッツ雑貨生産：主力商品の絞り込みと新商品開発
4） ココナッツ雑貨販売：取引先拡大を試み、70 万円の売上

３．10 年後のビジョン議論

財務状態が厳しい現状を踏まえ、10 年後のビジョン議論は少し優先順位を下げて取り組みます。若手理事の間で 10 年後のビジョン案を議論し、イメージを固める場を 2 回持ちます。

４．参加しやすい仕組みづくりと広報

一人でも多くの方に活動に参加・協力していただけるよう、以下の取組みを工夫しながら進めます。

【伝わる情報発信】

1） Facebook を活用したこまめな情報発信
2） マスメディアへのプレスリリースで物品寄付を呼びかけ
3） 団体リーフレットの改訂：認定 NPO 法人版の作成
4） 公式ホームページのリニューアル

【気軽に協力してもらうための取り組み】

1） 書き損じハガキ収集キャンペーンの継続（2500 枚）
2） 古本等を集めてフィリピンを支援する「ココロ便」（ブックオフ連携事業）の継続（20 万円）
3） メールマガジンとボランティア情報メールの統合、リニューアル。

【会員・サポーターになってもらうための取り組み】

1） 会員・サポーターの方々と協力しての、関西でのアクセス主催イベントの開催（年 5 回）
2） 支援の意義や効果を分かりやすく伝える会員・サポーター募集キャンペーンの実施

【情報発信、報告および感謝を伝えるコミュニケーション】

1） ニュースレター「となりのアジア」の年 4 回発行
2） 年次報告書の年 1 回発行
3） 協力者の皆さまへのクリスマスカード
4） 広報・情報発信に関するアンケートの実施

５．その他

以上の取り組みを支える基盤を強化し、持続可能な組織を実現するために、以下のような取り組みを進めます。

1） 事務所の移転
2） 事業助成・組織基盤助成あわせ 6 件の助成金に申請
3） アクセス・フィリピンへの運営サポート：年 4 回の訪問
4） 日本・フィリピンの事業と財務構造を見直し、赤字構造から抜け出すための新たな財務 3 か年計画を策定
5） 新職員・インターン育成のため、定期的な面談を実施

日本の新事務所の様子

私たちのめざすもの 「誰も犠牲にしない豊かな社会」

■痛みを和らげながら、原因にも目を向ける

アクセスのミッション（使命）は、３つです。

１つ目は、貧しい人々が今まさに直面している貧困の痛みを和らげようとする活動（教育、保健衛生、生計面などの支援）です。２つ目は、貧困の原因を明らかにしながら、貧困をなくそうとする人々を増やすことです。３つ目は、それら２つを実践し、よりよい社会を創っていく力を、日本人・フィリピン人ともに身につけてもらうために、協力できる場を提供することです。どれか１つ欠けても、貧困をなくすことはできないと考えています。

■国境を越えて思いやりあう関係を築く

アクセスの奨学金プログラムは、週 300 円（年間 15000 円）で一人の子どもを小学校に通えるようにする、教育里親制度です。奨学金を受給したとしても、その家族がすぐに貧困から抜け出せるわけではありません。しかし、食事さえ満足に準備できないような時であっても、「日本で応援してくれている人がいるんだから、何とか頑張らないと」と感じる人は多く、支援者の存在が心の支えとなっています。他方、日本の奨学金サポーターの中には、「フィリピンの子どもたちから届く手紙が励みになり、辛い仕事も頑張れます。」とおっしゃる方もいます。単なる経済援助ではなく、「国境を越えて思いやりあう関係を築くこと」ができればと思いながら、プログラムを実施しています。

貧困の中で生きるとは、次々と問題が押し寄せる毎日を生き延びるということです。私たち NGO にそれら全ての問題を解決することはできませんし、問題を解決していくのは問題の中で生きる人々自身です。そんな中、「希望を持ち、前を向いて生きていこう」と思えるよう支援するのが、私たち NGO の役割だと考えます。

■ペレーズの漁獲量減少と日本

アクセスの事業地の１つペレーズ地区の漁師は言います。「20 年前は数時間で何キロもの魚がとれた。でも今は、8 時間漁を続けてもせいぜい 2〜3 キロだ。」ペレーズ近辺の漁獲量減少の最大の原因は、日本、中国、台湾、韓国などから来る大型漁船による乱獲と言われています。実は私たちは、知らず知らずのうちにフィリピン近海でとれた魚を、日本で口にしているのです。

「より便利で、より安く、より質の高い暮らし」を求める日本のライフスタイルは、見えないところで、ほかの国の人々の生活に影響を与えています。こうした日本のライフスタイルを見直し、どうすれば「誰もが人間らしく幸せに暮らせる世界」、「見えないどこかで誰かを犠牲にしない世界」を創れるのか、考えていく必要があるのではないでしょうか。

■「誰も犠牲にしない豊かな社会」をめざして

日本は中流層の多い経済大国から、格差社会に転落しようとしています。貧困問題は南の国の問題だけではなくなり、日本でも子どもの貧困・女性の貧困の問題が深刻化しています。そうした中で、世界の見えない誰かを犠牲にすることなく、例えば私たちが直接かかわっているフィリピンの貧しい人々とともに、より多くの人が幸せを感じられるような社会や世界のあり方について議論し、実践していくことがますます必要になっています。

原始時代のような暮らしに後戻りするのではなく、しかし便利さや物質的な豊かさばかりを追い求めるのでもない。個人の多様な価値観を尊重しながらも困った時は助け合えるような、新しい形の「豊かな社会」「豊かな世界」が必要になっているのではないでしょうか。

アクセスは、経済的な貧しさを克服しながら、新しい形の「豊かな社会」を築こうとする人々が出会い、協力できるような場でありたいと考えています。そうした協力が国境を越えて広がり、希望を持って生きられる人が一人でも増えるように、皆さまとともに活動を創っていきたいと思います。

No sacrifice

私たちのめざすもの　「私たちの活動の柱」

活動の柱1　エンパワメントという考え方

なかまと出会い、協力し、力をつけ、ともに課題を解決する

私たちは、貧困問題を解決する主体は、貧困の中で生きる住民自身であると考えています。その上で、住民自身が自らを組織し、協力して自分たちの抱える問題を解決する力を身につけること（エンパワメント）を支援することが、NGO の主要な役割であると考えているのです。

具体的には、教育支援、生計支援、青年育成などのプログラムを通じて生活改善をすすめながら、プログラム参加者の組織づくりを行い、活動の一部または全部を住民自身の手で運営できるようになることをめざしています。また、各地域の貧しい人々が抱える問題（都市貧困コミュニティであれば強制立ち退きの問題、農村であれば大土地所有制の問題など）にも取り組むことのできる、地域全体をカバーする住民自身によって構成された住民協議会の建設もめざしています。

一人ひとりの人間が持つ力は小さくても、得意分野を活かし、支えあい、学びあい、協力する場となる組織があれば、貧困に立ち向かうための大きな力を生みだせる。そう信じて、組織づくりを通じたエンパワメントを大切にしています。

私たちが創ろうとする住民組織とは

私たちが最貧層の人々と共に創り出そうとしている、貧しい人々自身の組織(People's Organization=PO)は、次のような力を持つ組織です。

1. 民主主義を実践する力
2. 事業を運営する力
3. コミュニティー内のより貧しく、より抑圧されている人々を優先することのできる力
4. コミュニティーの内外を問わず、人権・戦争（支配者による暴力的支配）という諸問題に取り組むことのできる力
5. 他のコミュニティー・他の地域・他の国の民衆の貧困・人権・戦争（支配者による暴力的支配）への取り組みに開かれ、連帯することのできる力
6. 地方や中央政府と交渉し、場合によっては闘うことのできる力

他方、「北」（先進国）の市民のエンパワメントも、NGO の重要な役割であると考えています。「南」（発展途上国）の貧困問題は、16 世紀以降の近代植民地支配に始まる「北」による「南」の支配と搾取の結果です。この地球にある限られた資源や土地を、より多く手に入れることができる、またはより多く利用できる国や人々だけが豊かになり、それらを奪われたり自由に利用できない国や人々は貧しさを強いられます。貧困問題を解決するには、そうしたアンフェアな世界の仕組みを変えていく必要があります。

そして、そうした世界の仕組みを変えていくためには、「南」の貧しい人々の努力だけでなく、「北」の市民の自覚と参加が不可欠です。経済的に豊かであっても、社会を変える力をまだ十分に持たない私たち「北」の市民が協力できるネットワークを創り、議論と実践の場を提供することでエンパワメントする。それもまた、NGO の任務だと考えます。

アクセス日本のボランティア活動の促進に重点を置いた活動は、まさにその実践です。アクセスの目的に沿いつつも、それぞれ異なるテーマや課題を掲げたチームが組織され、独自の会議と活動を持って、自分たちで決めたことを自分たちで実行しています。現在、8 つの支援チーム・事業部・支部・委員会が活動を継続しており、チームメンバーとして登録されているボランティアスタッフの数は約 60 名です。

私たちにとってボランティアスタッフとともに進める活動は、日本の市民のエンパワメントの一つの形であり、それ自身が私たちの会の目的となっています。そして、ボランティアスタッフ自身がさらに多くの人々に働きかけ、エンパワメントを進めているのです。

活動の柱2　地球市民という考え方

「日本人」「フィリピン人」という区別を越えて「地球市民」として考え、行動する人を増やす

貧困問題に取り組むとき、「『南』の問題は『南』の人々が解決するのであり、『北』の人々はそれを外部から支援するだけである」という考え方があります。しかし私たちは、たとえ「南」の地域で発生している問題であっても、「北」の市民も「地球市民」として「南」の市民と同じように問題に主体的に取り組むことができるし、取り組むべきであるという考え方をしています。

1980 年代以降、グローバリゼーションが急速に進展・深化し、多国籍企業化による資本の「北」から「南」への移動と、移民・出稼ぎ労働者の「南」から「北」への移動が歴史的規模で進行しています。1990 年代以降の日本の NGO 活動の発展も、こうした文脈の中にあります。そうした中で、「南」と「北」の市民同士の、政府や企業を媒介としない直接的なつながりが、国境を越えて質・量共に発展しています。日本の社会や政府の問題は日本人の問題、と済ませてしまうことのできない状況が生まれつつあるのです。フィリピンの社会や政府の問題も同様です。

こうした社会背景のもと、アクセスはスタディーツアーをエンパワメントと地球市民形成のための重要な環としてとらえ、力を入れて取り組んできました。また、フィリピンで日本人インターンを積極的に受け入れ、支援チーム・事業部も、年に1～2度フィリピンのプロジェクト地を訪れ、支援している住民との交流や担当スタッフとの会議を直接行ってきました。アクセスの組織自身も、形式的には日比それぞれの国家の法律に基づきそれぞれの国に法人を組織していますが、実質的には単一の国際NGOとして活動を行っています。

こうして、私たちは「南」と「北」で市民のエンパワメントを進めながら、国境や国籍を超えて同じ目的を共有する「地球市民」という意識でたくさんの人々をつなげ、市民同士の直接の協働関係を築くことを通じて、貧困問題を解決しようとしています。

※本文書は要約版です。「私たちの活動の柱」全文は、
http://www.page.sannet.ne.jp/acce/pdf/vision.pdf
で、ご覧いただけます。

私たちのめざすもの　「エンパワメントと組織化」

「エンパワメント」とは、アクセスが貧しい人々の支援をする際、もっとも重視している考え方です。
エンパワメントには様々な定義がありますが、簡単に言えば、
「人々の持つ潜在能力をひきだし、自ら問題を解決できるような力をつけること」と言えます。

自立支援としてのエンパワメント

貧しい人々の生活状態をよくしたいと思ったとき、支援の仕方にはさまざまな方法があります。1つは、食事を提供したり、着るものを提供したり・・・今まさに足りていないものを、現物で提供するという支援です。これは短時間ででき、成果もわかりやすい。けれども、多くの貧しい人々は「援助をもらうより、自ら働いて生活を良くしたい」と願っているのが現実です。

そこで多くのNGOが行っているのが、「問題を解決する手段を教える」という支援です。貧しい農民には、より収穫を得られるような農法を教える。子どもたちには、将来、安定した仕事につきやすくするために、教育の機会を提供する。働きたくても仕事が見つからない人には、商品として売れる品物を作る技術を身につけてもらえるよう訓練する。こうして、それぞれの人が直面している課題について、その課題を解決するための力を身につけられるような支援（エンパワメント）を行うのです。アクセスのプログラムのほとんどが、これに当てはまります。しかし、アクセスはそれだけで終わりたくないと考えています。

「協力する力をつける」エンパワメント

ある子どもを大学進学まで支援し、卒業後に一流企業に就職できたとしましょう。その子は家族のために立派な家を建て、携帯電話やコンピュータを買って、不自由ない生活を実現することができるでしょう。でも、その子が他の貧しい家族については気にかけないとしたら・・・？

フィリピンでは、家族・親戚間での助け合いはとても大切にされていますが、血縁関係にない人々同士が助け合ったり、みんなで協力して問題を解決しようとする姿勢はそれほど強くありません。むしろ、貧しさから抜け出そうと、「家族や親戚のために、他を蹴落としてでも自分はチャンスを掴まなければ」と努力する人が多いといえるかもしれません。

そんな社会の中で、同じ苦労を抱える人々同士が、力をあわせて共通の課題に立ち向かっていけるようにしていきたい、というのがアクセスの考えです。たとえば奨学金プログラムでは、子どもたちに教育の機会を提供すると同時に、保護者会を組織しています。保護者会では、子どもたちの多くがお腹をすかせたまま授業を受けているという現状をなんとかしようと、保護者が交代で給食を調理し、届けるという活動を始めました。個人では解決できない問題について、共通の課題を抱えた保護者が自らを組織し、協力し合い、問題解決のための取り組みを皆で実施し、継続できるようにしていく。アクセスは、そうした活動に必要な資金を調達し、その事業の運営・組織の運営にあたって必要なさまざまなスキルを保護者が身につけられるよう、サポートをしています。アクセスでは、こうした集団に対するエンパワメントに力を入れています。

もう１つ、アクセスがめざしているのは、貧しい人々に地域ぐるみで問題を解決しようとする力を身につけてもらおう、ということです。教育や仕事、青少年育成など、特定の分野ごとの事業運営と並行して、地域全体が抱える課題（大土地所有制や、立ち退きの問題など）に取り組める組織をつくることをめざし、活動を行っています。

フェアトレードプログラムの場合

ペレーズ地区で、地域に豊富にある素材（ココナツ殻など）を活用した商品の生産・販売を行い、そこから得られる収入で生産者の生活を向上させていこうという取り組みです。

働きたいと願う女性を対象に、技術指導を行い、商品生産を開始。日比共同でデザインを開発し、主に日本で販売。一人ひとりの生産者が、アクセスのスタッフから直接、指導や注文を受けていました。

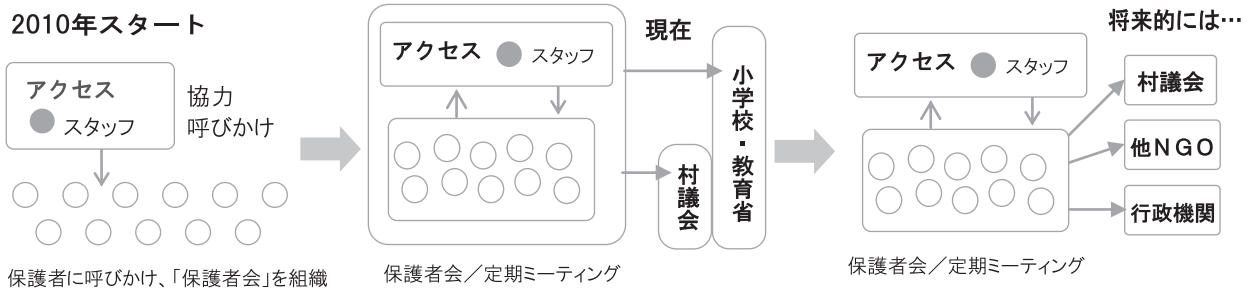
生産者グループ「マパヤパ」を組織して、役員選出、規約づくり、定例会議の開催が実現。以前はアクセス・スタッフが行っていた発注の配分、品質管理、出荷準備などもメンバーで分担して行うようになっています。アクセス・スタッフは、生産者団体が自立できるよう、サポートを行っています。

生産者一人ひとりが対等な立場で経営・運営にたずさわり、民主的にものごとを決定する共同組合として、マパヤパが自立することを目指しています。アクセスは、マパヤパの取引先であり、相談役として関係を継続します。

Empowerment

給食プログラムの場合

ピナツボ地区の子どもたちのための給食プログラムでは、アクセスが資金を確保し、保護者が買出し、調理、配膳、後片付けを担っています。



保護者に呼びかけ、「保護者会」を組織

保護者会／定期ミーティング

保護者会／定期ミーティング

近畿ろうきんからの支援で
給食プログラムを実施するにあたり、
幼稚園・小学校の保護者を
「保護者会」として組織。
保護者が協力して、給食を実施する
体制を作りました。

給食準備ミーティングや、調理ボランティアは、
保護者間の親睦を深める場に。
「小学校卒業まで学べる地域をつくりたい」
という保護者の想いが届き、教育省が2014年に
校舎を増設。2014年度は6年生まで開講され、
火山被災後、初の卒業生11人が誕生しました！

地域の未来は、住民自身が考え、決めて
いきます。アクセスは話し合いをサポートし、
意見がまとまるよう支援します。
人々が村議会やNGO、行政などと協力して
課題を解決していけるようになることを
めざします。

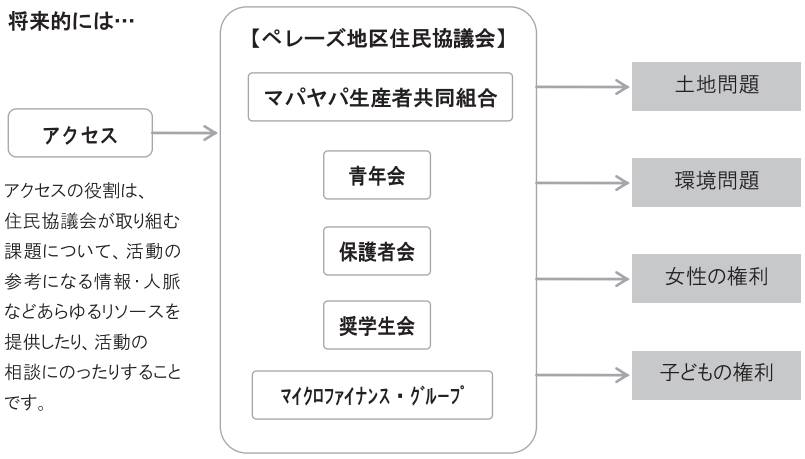
貧しい生活の中で、十分な教育を受けることができずにきた人々にとって、事業を運営したり、組織として話し合いでものごとを決めたり問題を解決したりするというのは簡単なことではありません。そんな中、アクセスでは保護者会や生産者団体といった、プログラム参加者によるグループを組織し、日々の活動を通じて、メンバーが事業運営に関するさまざまなスキルを身につけられるようにしているのです。

アクセス・スタッフの仕事は、そうした事業運営をまずは自らやることで手本を示し、その後、徐々にその仕事を参加者に引き継いでいくこと、そして組織運営に関するアドバイスをしたり、相談にのったりするということです。また、子どもや女性の権利についてのセミナーを行ったり、貧困が生まれる構造についての学習会を行うなどして、住民の意識の向上にも取り組んでいます。

コミュニティ・エンパワメント～地域の問題にとりくむ組織づくり

現在、アクセスが行っているすべてのプログラムのもとで、住民のグループを組織すること、そしてそれぞれのプログラムを組織のメンバー自身が運営できるようになることをめざしています。いずれは、それぞれの組織の代表者によって「住民協議会」がつくられ、地域の多くの人たちが共通して抱えている問題の解決にとりくめるような存在になっていけば、と考えています。

住民協議会の建設と役割



農村地区の貧困の原因の1つは、大土地所有制ですが、一部の農民が不満を口にしたくらいでは大土地所有制をなくすことはできません。でも、土地なし農民が協力し、一斉に声を挙げれば、状況を改善できる可能性はあります。

子どもの権利についても、尊重されるべき権利について知る人を増やし、多くの子どもが団結して権利を主張すれば、権利侵害は減っていきます。

「住民協議会」は、地域が抱える問題について提起し、どうすれば問題が解決できるのかを考え、議論し、行動にうつしていくための場です。

役員・スタッフ・ボランティア

アクセス・フィリピン

フィリピン理事会

理事長　カルメンシータ・カラグタグ（メンチ）
理　事　ロサリナ・クラマー（リサ）
理　事　アイダ・カルロス
理　事　石川 雅国
理　事　カルメリータ・モランテ

フィリピン運営委員会

ロサリナ・クラマー（リサ）、石川雅国、アレン・アルゾラ

フィリピン事務局

（左から）

石川 雅国	総務経理 / ピナツボ担当
ロサリナ・クラマー（リサ）	事務局長
マリエル・ヴィリャヌエヴァ（マース）	教育啓発担当
クリスター・ジョン・ララ（ジェリック）	都市貧困地区担当
アレン・アルゾラ	副事務局長
ライアン・サルバドル	経理担当

ピナツボ地区

（左から）

ジェネット・アルバロ	アシスタント・コーディネーター
アイリーン・ブラヤグ	幼稚園教員
ダニーロ・ドティリョス	事務所管理人

都市貧困地区

【パヤタス地区】（左から）

マーリン・パデシオ	幼稚園教員
テレサ・オングダ	教員補助
マリテス・ペリノ（テス）	幼稚園管理人

【トンド地区】（左から）

ジェセル・エヴァスコ	青年会担当
ジェイミー・アマンテ	奨学金担当

ペレーズ地区

（写真左より）

アレン・アルゾラ	コーディネーター
リザ・メルカド	奨学金担当
岩井 さくら	インターン
ライカ・フェブラー	奨学金担当
ジェンナ・リン・オスタガ（ジェン）	奨学金・マイクロファイナンス担当
アビケル・エスカミリャス（アビー）	フェアトレード担当

（2017 年 7 月時点）

アクセス日本

日本理事会

理事長	新開　純也	元株式会社タカラブネ社長
常務理事	森脇　祐一	事務局員
理　事	江口　慶明	関西大学生活協同組合専務理事
理　事	河西　実	NPO 法人フェア・プラス事務局長
理　事	片岡　卓三	医師
理　事	菊池　光造	京都大学名誉教授
理　事	崎山　政毅	立命館大学教授
理　事	杉山　遼	特別支援学校 教員
理　事	千田　智之	株式会社ソフトパス代表取締役
理　事	田中　雅規	株式会社髙島屋社員
理　事	塚本　誠一	弁護士
理　事	中本　式子	元生活クラブ京都エルコープ理事長
理　事	野田　沙良	事務局長
理　事	廣瀬　昌代	同志社大学大学院生
監　事	渡邊　功	公認会計士

日本事務局

（後列左より）

事務局員　竹内　彩帆
事務局員　野田　沙良
事務局員　森脇　祐一
事務局員　峠　千尋

（前列左より）

インターン　杉山　雄亮
インターン　坂本　唯
インターン　長濱　佑紀

（2017 年 6 月）

事業部・チーム・支部・委員会・ボランティア

【フェアトレード事業部（FT 事業部）】
久保七彩、薮内梨果、徳田一樹、田中雅規

【開発教育チーム（GET）】
新谷田奏子、白柳飛翔、三戸部香帆、内田拓巳、草野早紀、松崎智子

【スモーキーマウンテン支援チーム（FIT）】
尾崎弘明、水城美冠、三戸部香帆、駒井真帆、岡﨑沙也香、吉永綾子、寺脇優衣、杉山遼、薮内梨果、伊藤恭平、高橋いづみ、美波朋大、谷和之、日永志穂、有馬千智、藤田直也、赤井美賀子

【ペレーズ支援チーム（FACT）】
天野空、工島梨加、宇野絵里奈、木原茉莉亜、梅森華

【ピナツボ支援チーム（PEACE）】
山下凪、橋本琳太郎、稲田悠祐、石川翔太

【東京支部】
佐藤真彦、物延玄朗、石塚葉月、阿部仁美、有馬千智、木澤瑞季、山田菜々子、森井英樹、上村碧、中川淳一郎、小泉将貴、藤田直也

【カフェイベント実行委員会】
尾崎弘明、大泉晴香、中村結、荒木友紀子

【翻訳ボランティアチーム】
平井孝子、榎本桂子、岡﨑眞也、木村龍一

（2017 年 5 月末時点）

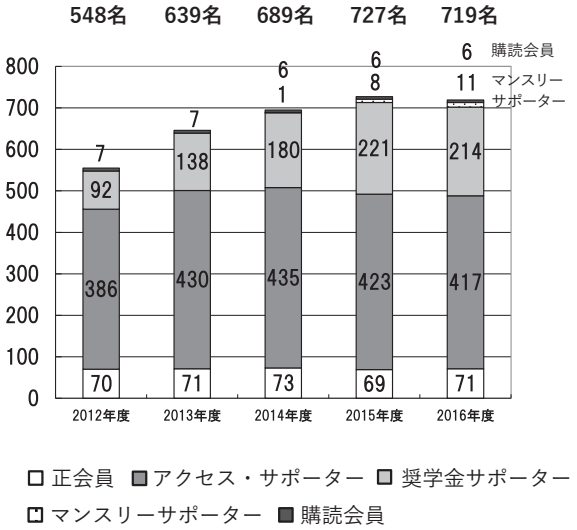
Japan

会員・寄付者（2016 年度）

会員サポーター数　全 719 口
寄付協力（資金）　個人 86 名、グループ・法人等 20 件
書き損じはがき　個人・グループ・法人等 46 件／1,662 枚
ココロ便　個人・グループ・法人等 62 件／137,513 円
（本・CD・DVD・ゲームのご寄付）
その他物資　個人・学校・法人等 20 件
（文房具、衣類、未使用テレホンカード・金券・切手など）

アクセスの活動は、会員・サポーター・支援者の皆さまお一人お一人のご理解とご協力のもとに成り立っております。2016 年度にいただいたご支援・ご協力に、あらためてお礼申し上げます。

※各年度末時点の会員数



ご支援いただいた助成団体（2016 年度以降）

日本化学産業労働組合連合会「スマイル by ＪＥＣ」
ゴミ捨て場周辺コミュニティにおける教育支援事業
（2014 年度、2015 年度、2016 年度）

日本労働組合総連合会（連合）「愛のカンパ」
ゴミ捨て場周辺コミュニティにおける教育支援事業
（2014 年度、2015 年度、2016 年度）

公益財団法人庭野平和財団「活動助成」
フィリピン・ピナツボ火山土石流被災地における子どもに優しいコミュニティ建設事業（2015 ～ 2016 年度）

独立行政法人国際協力機構（ＪＩＣＡ）「世界の人々のためのＪＩＣＡ基金」（委託事業）
フィリピンの貧しい農漁村におけるマイクロクレジット事業の再建（2015 ～ 2016 年度）

一般財団法人まちづくり地球市民財団
フィリピン貧農村地区におけるフェアトレードプログラム強化事業
（2015 年度、2017 年度）

公益財団法人大阪コミュニティ財団「ストリートチルドレン等救済基金」
ピナツボ火山土石流被災地での子どもに優しいコミュニティ建設
（2017 年度）

関西ＮＧＯ協議会・真如苑「関西地域ＮＧＯ助成プログラム」
インターネット広報の戦略的強化を通じた団体基盤強化事業
（2017 年度 ）

公益信託 今井記念海外協力基金「国際協力ＮＧＯ助成」
奨学金プログラムの保護者・奨学生に対するジェンダー・センシティヴィティについての意識向上事業（2017 年度 ）

まちづくり地球市民財団の助成金で、事業の強化に取り組んできたフェアトレード事業。クリスマスカードを作る生産者。

夢屋基金、日本化学産業労働組合連合会、日本労働組合連合会から助成いただいたパヤタス地区の幼稚園

大阪コミュニティ財団から助成いただいた、子どもの権利セミナーの様子

ご協力いただいた企業・学校・団体等（2016 年度）

京都市立修学院中学校	フィリピンの子どもたちの小学校就学に対する支援（2002 年～）
近畿労働金庫	フィリピンの子どもたちに教育と給食を提供する「心のそしな」プロジェクト（2010 年～）
ブックオフコーポレーション株式会社	中古品の寄付によりフィリピンを支援する「ココロ便」プロジェクト（2013 年～）
株式会社ドロキア・オラシイタ	フィリピンの子どもたちへの給食と文房具を提供、小学校就学を支援（2014 年～）
ｇｏｏｄｄｏ株式会社	NPO を無料で簡単に支援できる! gooddo (2015 年～)
株式会社テーブルクロス	社会貢献型グルメアプリ「テーブルクロス」あなたの予約が子どもの給食に (2014 年～)

スリースター京都、薬院オーガニック株式会社、株式会社ロジック、株式会社ジェイ・シー・エス、一般財団法人 H2O サンタ、認定 NPO 法人 D x P、特定非営利活動法人アーユス仏教国際協力ネットワーク、喫茶うずら、有限会社ウエストコースト、イナホ食堂東口、オレンジハウス、かぜのね、Vegans Café and Restaurant、鴨東教会、法蔵寺、西正寺、お茶の水女子大学、浄土真宗本願寺派北豊教区門司組、ブランチフォースファウンデーション、豊中市立第八中学校、高松市立林小学校、木津川市立木津第二中学校、立命館中学校・高等学校、神戸学院大学 ボランティア活動支援室、京都市伏見青少年活動センター、国際ソロプチミスト稲城、神戸ゾンタクラブ、京都西北ローターアクトクラブ、京都北ローターアクトクラブ　（順不同）

受賞歴

公益財団法人かめのり財団「第 5 回かめのり賞」
「日本とアジア・オセアニアの若い世代を中心とした相互理解・相互交流の促進や人材育成に草の根で貢献」（2011 年）

社会福祉法人京都市社会福祉協議会表彰
「福祉のまちづくりに貢献」（2013 年）

特定非営利活動法人パートナーシップ・サポートセンター
第 8 回パートナーシップ大賞グランプリ
「NPO と企業の優れたパートナーシップ事例を選出し表彰する」（2011 年）

公益財団法人京都オムロン地域協力基金
「ヒューマンかざぐるま賞」（2017 年）

公益財団法人社会貢献支援財団
「社会貢献者表彰」（2017 年）

ヒューマンかざぐるま賞の授賞式にて

社会貢献支援財団の理事長、
安倍昭恵さんとともに

加盟団体・ネットワーク等（2016 年度）

特定非営利活動法人関西ＮＧＯ協議会（正会員）、特定非営利活動法人国際協力ＮＧＯセンター（正会員）
日比ＮＧＯネットワーク（正会員）、京都府国際交流団体情報ネットワーク「kokoka 国際交流団体ねっと」（会員）

ピックアップ！

預金を通じて、子どもたちを応援！「心のそしな」プロジェクト

アクセスでは近畿ろうきんと連携して、ピナツボ地区とペレーズ地区の子どもたちに教育と給食を提供する「心のそしな」プロジェクトを 2010 年にスタートしました。これは、近畿ろうきんに定期預金などをしてくださった方への粗品を一部なくし、粗品分の費用を子どもたちへの給食・教育支援にあてるというものです。

この取り組みは、企業とＮＰＯの協働事業を表彰する「パートナーシップ大賞」の 2011 年度グランプリにも選ばれ、新聞・ラジオ・雑誌等でも紹介されました。

【問い合わせ】近畿労働金庫 本店営業部 TEL 06-6449-1211

フィリピンからの声、協力者の声

マーク・ジャルシィ・ミラナイ・ラバコ
3年生／9才
ペレーズ在住

僕のことを思い出してくれているとわかって…

サポーターさんから誕生日カードが届いたときは、僕のことを思い出してくれているとわかって、とても嬉しかったです。僕はふだん、双子の弟の世話をしたり、ごはんの後にテーブルを片付けたりして、お母さんのお手伝いをしています。大好きなことは、テレビでアニメを見ることです。寝る前には、お母さんとお父さんが本読みの練習を一緒にしてくれます。
僕を応援してくれている日本のサポーターの方が、いつも元気で幸せであることを願っています。

マリエル・ヴィリヤヌエヴァ
アクセス
フィリピン事務局
啓発・教育担当

サポーターの方からのプレゼントを届けて

トンドの奨学生だったアレクシーくんは、家庭の事情で働かなければならなくなり、年度途中に小学校を中退してしまいましたが、それでも、サポーターだった方からクリスマスプレゼントが届きました。アレクシーくんは遠慮してプレゼントを受け取りに来なかったため、地区内を歩いてまわり、ゴミ拾いをして働いていた彼を見つけました。プレゼントを手渡し、サポーターの方からのお手紙を読んで聞かせると、表情から、とっても喜んでいることが伝わってきました。そして彼は、泣くのを我慢しながら、すぐに仕事に戻っていきました。今アレクシーくんは、がんばって復学をめざしています。

松岡 春香
奨学金サポーター
ボランティア
スタッフ

未来を広げるために必要なこと

支援してきた奨学生が卒業し、届いたお手紙や報告書を読んだときは、本当に嬉しかったです。奨学生となって学校に行くことでできた経験、成長できた部分が、本当に沢山あったんだと感じました。彼女の持っている可能性や自信は、この6年間の学校生活があったからこそ身に付いたことで、教育を受けることは未来を広げるためにも本当に必要なことなんだろうなぁと実感しました。

福谷 朱夏
マンスリー
サポーター

「誰かの役に立っていること」が喜び

スタディーツアーで出会ったフィリピンの子どもたちの笑顔が今でも忘れられず、活動を続けています。ささやかですが、「誰かの役に 立っていること」が今の喜びです。

ご参加、ご協力いただきたい活動

アクセスでは、フィリピンの4つの事業地でさまざまな支援事業を行い、日本でも多くのイベント・企画を行っています。
その中でも、2017年度特に特に多くの方にご協力いただきたい活動を、ポイントを絞ってご紹介します。
ぜひ、ご参加、ご協力ください。

京都・大阪で
イベントを開催！

2017年度は、理事・杉山遼のライフストーリー

2016年度にご好評いただいたトークイベント。
その経験を活かし、2017年度は大阪と京都で、事務局長・野田と、
理事・杉山のライフストーリーを通して、フィリピンの現状や
アクセスの活動についてお伝えするイベントを開催します。
近畿外でも開催したい！という方は、ぜひ一度、ご相談ください。

中古の本、CD、
DVD、書き損じハガキ、
大きな力になります。

書き損じハガキ1枚で、
子どもに栄養バランスのとれた給食を
1食届けることができます。
今年度も皆さまのご協力をどうぞよろしく
お願いいたします。

毎月のご支援が、子どもたちの未来を支えます。

マンスリー
サポーター

1,000円あれば

フィリピンの子どもたちに25食分の給食に

3,000円あれば

働きたい女性や若者12人のための研修費に

お申込はこちら ▶ www.page.sannet.ne.jp/acce/supporter_credit.html

＊アクセスへのご寄付・サポーター費は、税制優遇の対象となります。

access
市民のネットワークが貧困のない社会を創る

【お問合せ・ご相談】
TEL/FAX 075-643-7232　Eメール acce@sannet.ne.jp

access

子ども に 教育、女性に仕事を

認定ＮＰＯ法人 アクセス－共生社会をめざす地球市民の会

612-0029 京都市伏見区深草西浦町8-85-4
TEL/FAX 075-643-7232　E-MAIL acce@sannet.ne.jp
http://www.page.sannet.ne.jp/acce/

アクセス NGO　検索